023069-000-0

291.09-0339ん

避暑案内

大浜　六郎／著

M43

ADB-1074

文學博士　大槻文彥序
大濱六郎著

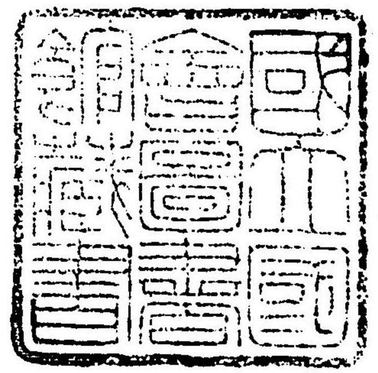
避暑案內

服部書店發行

291.09 Q339h

避暑案内序

われ〳〵が、旅遊山に出かけようとする時は、先づ、其道筋のみちのり、汽車、電車、馬車、人力車、汽船などの事から、其路すがらの名所舊跡などを知らうとして、多くの地圖、地理書、地名字引、名所圖會、案内記のやうなものを、一場所毎に取出し、若し、それが無ければ、買集めなどして調べるのに、出立前に、三日、五日、乃至は、一週間ぐらゐかゝる事がある、これを調べて行かなければ、盲の道中で、何の詮もない、さうして、その集めた書物から、書きぬくか、又は、その嵩ばる書物を、持つて出かけねばな



336830

らぬ、これらの事で、いつも、面倒を感ずる、是れは、誰も同じ事であらうと思ふ、それに、路用はいくらかゝる、何程の金を携へねばならぬかなどは、自身では、調べる事が出來ぬのである、然るに、大濱君は、その旅行の案内にとて、關東八州、伊豆、駿河、信濃、磐城から、遠い青森縣までの、所々の溫泉場、海水浴、又は、其近邊の名所古跡、神社佛閣などをも調べて、富士登山の手續きまで加へて、それに、順路の汽車、汽船の時間から、路費や、支拂の金高まで、委しく書いて、この避暑案内を作られた、一度開けば、一日で、何れの場所をも、細かに知る事が出來て、避暑とあるけれども、無論に、四季の用となる、旅行するに、此一冊さへあれば、自身で調べる手間もなく、骨折りもせず、荷物も輕くて濟むから、費用も省かる事となり、又、取調べの日數も省かるから、七日の旅行は、十日も出來るといふ事になる、能く働いて能く遊ぶはよい、唯、遊ぶといふばかりでなく、たやすく、十分に、湯治も海水浴もできれば、からだもすこやかになり、名所地理の智識も得られる、此書物は、誠に、旅行する者に、便利至極なものである、きつと賣れよう、いや、誰も買はねばならぬ。

明治庚戌六月　　假名の屋のあるじ文彦

凡例

一本書は重に學生諸君並に中流人士が遊覽旅行等をなさんとする便益に供せんが爲め編せしものにして、「溫泉」「海水浴」「富士登山」の三卷を以て一部完成となし發行せり。

一本書には、顯著なる名勝舊蹟等をつとめて網羅し、且つそれらの現況を掲載するを主眼としたれども、人事變遷の速なる今日なれば、往々本書と齟齬することなきを期せず、且つ錯誤の點も多かるべし、願くは杜撰を以て咎むる勿れ。

一本書は從來の案内書とは異なりて、先づ第一に行先きの順路を掲け及び汽車汽船發着時間等を最も詳細に記載したり、第二には費用及支出概算の一欄を設け宿泊料等を一々正確に掲載したるものなり、且つ「宿泊料」「晝食料」「貸室料」等につきては特に各旅館につき照會狀を發し正確なる廻答を得たるものなり。

一本書に掲載せる溫泉、海水浴等は東京を中心として僅かに其の幾分を選擇した

るものにして、又掲載順序等も便宜上彼れを先きにし此れを後にしたるもあり
て必しも系統を立てず。

一本書に掲載せる汽車發着時間は明治四十三年七月一日現在を掲げたるものなり

一本書に掲載せる順路驛名中右側に◎印を附しあるは「切符通用期限中隨意下車驛」にして再び他の列車に乘継くことを得るものとす（通用期限は發行當日より起算し「五十哩未滿」は（一日）「五十哩以上」「百哩未滿」は（二日）とす）、×印を附しあるは「公衆電報取扱驛」にして、△印を附しある辨當發賣驛中最も重なるものを掲けたるものなり。

一本書に掲載せる費用及支出概算中旅館の茶代及び女中等の祝儀は掲けず、これは任意に致されて然るべし。

庚戌の夏

著者識す

目次

◎溫泉の巻

△箱根（相摸國）＝湯本＝塔の澤＝宮の下＝堂ヶ島＝底倉＝木賀＝小涌谷＝湯花澤＝蘆の湯＝上强羅＝下强羅＝大涌谷＝仙石＝姥子。……一
△湯河原（相摸國）＝伊豆山溫泉＝滑瀧＝不動の瀧＝賴朝隱れ大杉＝熊野權現。……二八
△熱海（伊豆國）＝大湯＝溫泉寺＝錦浦＝初島＝伊豆山溫泉＝荒宿濱海水浴。……四〇
△伊東（伊豆國）＝猪戸溫泉＝出來溫泉＝和田溫泉＝湯川海水浴＝初島＝網代港。……五一

△修善寺（伊豆國）＝獨鈷の湯＝河原湯＝眞の湯＝石湯＝松の湯＝乳兒の湯＝頼家範頼墓。……六四
△伊香保（上野國）＝榛名神社＝榛名湖＝物聞山＝木曾神社＝二ッ嶽伊香保神社。……七七
△草津（上野國）＝時間湯＝熱の湯＝瀧の湯＝鶯の湯＝地藏湯＝御座の湯＝瓜の湯＝目の湯＝四萬溫泉＝澤渡溫泉＝川原溫泉。……九〇
△磯部（上野國）＝鐵泉＝佐々木盛綱城址及墓＝大野九郎兵衛墓。……一〇七
△鹿澤（上野國）＝炭酸泉＝田澤溫泉＝沓掛溫泉＝赤倉溫泉。……一一二
△澁溫泉（信濃國）＝大湯＝安代溫泉＝上林溫泉＝中野溫泉＝湯田中溫泉。……一一八
△鹽原（下野國）＝大網溫泉＝福渡戸溫泉＝鹽釜溫泉＝門前溫泉＝古町溫泉＝畑下戸溫泉＝新湯溫泉＝鹽原の瀑＝鹽原奇岩怪石。……一二五
△那須（下野國）＝湯本＝溫泉神社＝殺生石＝川治溫泉。……一三八
△飯坂（磐城國）＝瀧の湯＝透達湯＝鮨湖湯＝穴野村溫泉＝宮原溫泉＝高湯溫泉＝微溫湯溫泉＝土湯溫泉。……一四七
△東山（磐城國）＝瀧の湯＝漣の湯＝管の湯＝穴湯＝目洗湯＝網湯＝榼の湯＝猿湯＝狐湯＝狢湯＝飯盛山＝羽黑山＝鶴ヶ城。……一五六
△上諏訪（信濃國）＝千野湯＝小和田湯＝田宿湯＝土湯＝北小路湯＝精進湯＝花湯＝旦過湯＝綿湯＝無名湯＝諏訪上社＝諏訪下社＝諏訪湖舟遊。……一六七
△淺間（信濃國）＝笹の湯＝目の湯＝御殿の湯＝桃の湯＝山邊溫泉。……一八二

△浅蟲（陸奥國）＝椿の湯＝大湯の湯＝五郎兵衛湯＝柳の湯
目の湯＝鶴の湯。……一八九

◎海水浴の卷

△北條（安房國）＝八幡神社＝鏡ヶ浦＝舘山＝舘山公園＝鷹の島＝
沖の島＝那古＝舟形＝延明寺＝龍伏松＝鉈切大刀
切神社＝洲の崎神社＝安房神社。……一九二
△那古（安房國）＝舟形海濱＝舟形觀音＝那古海濱＝那古觀音。……二〇二
△一の宮（上總國）＝一の宮海濱＝玉前神社＝高藤山＝藻原寺。……二〇八
△大原（上總國）＝八幡岬＝小濱岬＝鳶岬＝勝浦。……二一三
△銚子（下總國）＝銚子海濱＝犬吠岬＝鶏明浦＝外川浦＝川口明神。……二一八
△稻毛（下總國）＝稻毛海濱＝袖ヶ浦＝黒砂海濱。……二二七

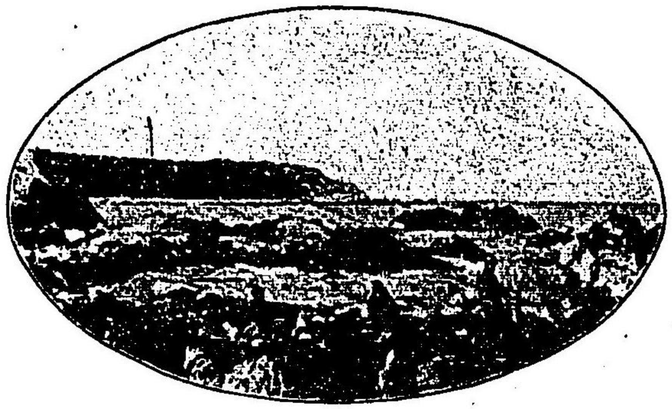
△大洗（常陸國）＝大洗海濱＝磯前神社＝平磯＝磯濱町。……二三一
△助川（常陸國）＝助川海濱＝下孫海濱＝川尻海濱。……二三九
△關本（常陸國）＝大津海濱＝平潟港＝勿來關。……二四五
△湯本（磐城國）＝湯本溫浴＝湯本神社＝住吉神社＝野田玉川＝小
名濱海濱。……二五〇
△原釜（磐城國）＝原釜海濱＝中村神社＝松川浦＝四倉海水浴。……二五六
△逗子（相摸國）＝逗子海濱＝森の戸浦海濱。……二六二
△鵠沼（相摸國）＝鵠沼海濱＝藤澤遊行寺＝片瀬より江の島＝七里
ヶ濱＝鎌倉。……二六七
△大磯（相摸國）＝照ヶ崎海濱＝鴫立澤＝沿岸海濱。……二七二
△沼津（駿河國）＝牛臥山海濱＝我入道海濱＝千本濱＝靜浦海濱。……二八一

◎富士登山の巻

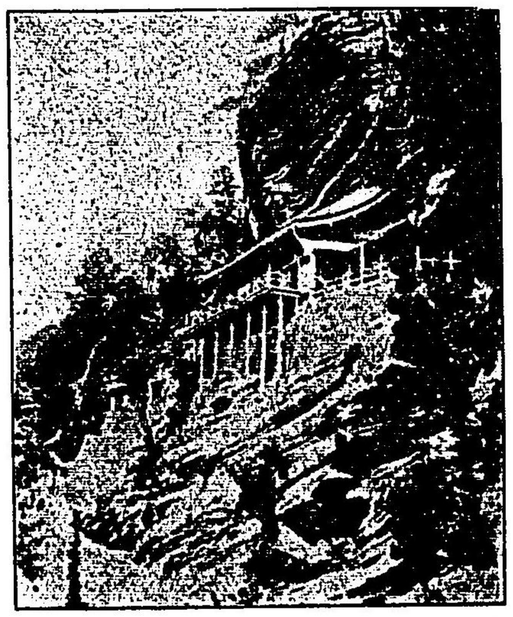
△富士山――（新橋より乗車、御殿場驛下車、登山上更に御殿場驛より乗車新橋へ下車）……二九〇
△富士山――（新橋より乗車、御殿場驛（下車、登山の上吉田口を經て大月驛より乗車飯田町（下車）……三〇二
△富士山――（新橋より乗車、御殿場驛（下車、登山の上箱根（廻り國府津驛より乗車新橋（下車）……三一四

◎寫眞版

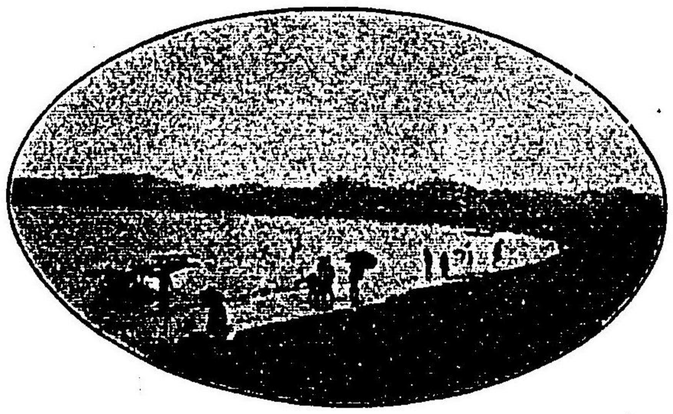
第一葉　房州鷄明浦の風光、同船形の觀音、同鏡ヶ浦の靜波
第二葉　獅子濱の展望、大磯海水浴場、逗子全景
第三葉　芦ノ湖の富士、塔の澤溫泉、箱根舊關所
第四葉　上州草津溫泉、夏の伊香保、諏訪湖上の夕暮
第五葉　修善寺溫泉、熱海の全景



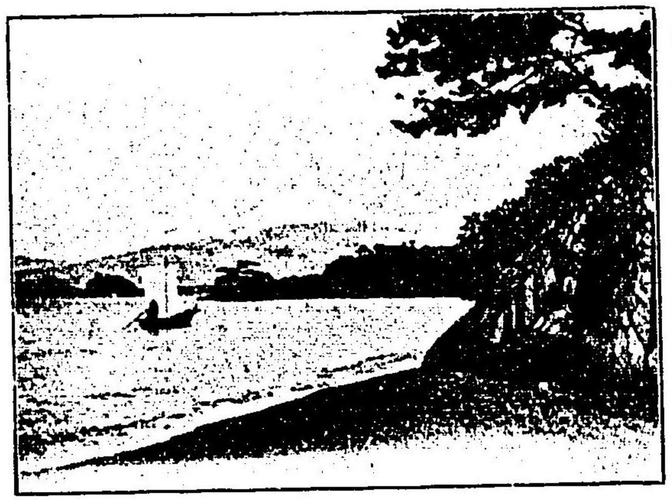
房州鷄明浦の風光



船形の觀音



鏡ヶ浦の靜波



獅子濱の展望

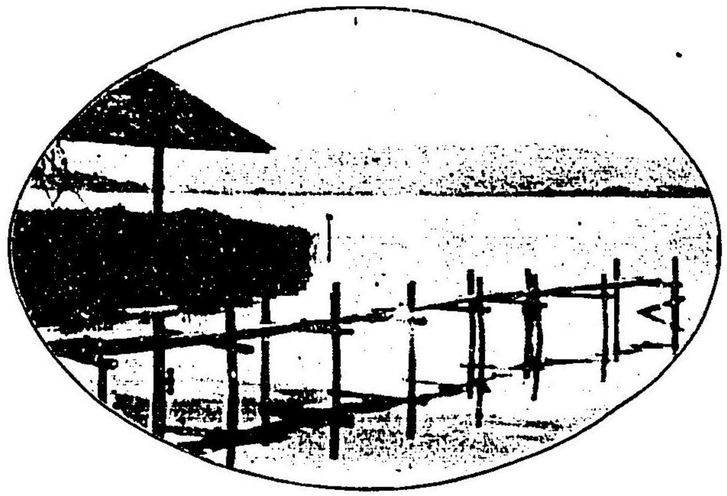
大磯海水浴場

逗子全景

芦ノ湖の富士

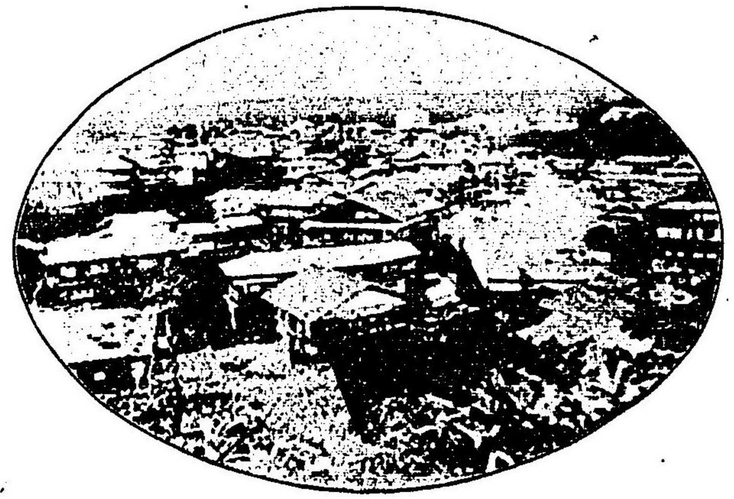
塔之澤温泉

箱根舊關所



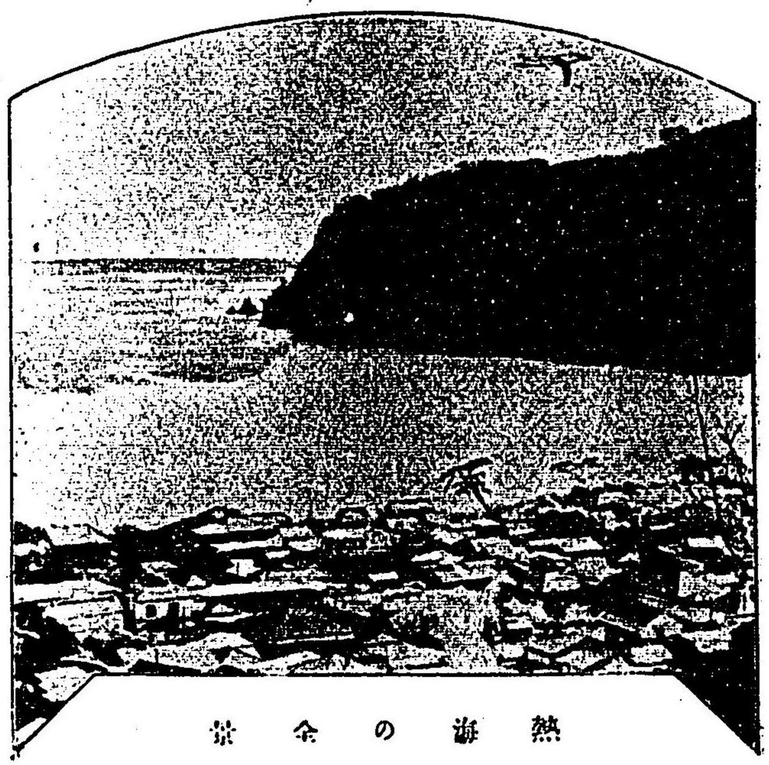
諏訪湖上の夕暮

夏の伊香保



上州草津溫泉

修善寺温泉



熱海の全景

避暑案内

温泉の巻

大濱六郎著

順路

箱根 湯本＝塔の澤＝宮の下＝堂ヶ島＝底倉＝木賀＝小涌谷＝湯花澤＝蘆の湯＝上强羅＝下强羅＝大涌谷＝仙石＝芦子

集合地 新橋停車場　**集合時間** 午前六時三十分

△午前七時二十分(國府津行)にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「横濱」「大船」「藤澤」「大磯」等の各停車場を經て午前九時四十分國府津停車場に着す(一番列車は前五時三十分發にて同七時五十分着す又は夜行なれば午後六時三十分

發にて同八時九分に着す)(四七哩　一時間三十分)

△小田原電氣鐵道にて午前十時四十七分國府津停留場を發し午前十一時五十一分湯本停留場に着す夜行午後八時九分「國府津」に着すれば同十九分電車を發し同九時二十分に着す(箱根山麓湯本温泉福住樓橋際停留場に着す)

△毎土曜、日曜及大祭祝日の前日當日幷に七月一日より九月三十日まで十一月一日より三十日まで十二月二十五日より翌一月十日まで「新橋」「品川」「横濱」及「平沼」より「湯本」まで汽車電車聯絡十四日間通用往復割引乘車券を發賣す

箱　根

都人士が避暑の地として第一に指を屈する箱根の地は相州足柄下郡の西南隅に位し東西の長さ四里四丁餘南北は山岳重疊して其幾何なるを知らず此地や古より天險を以て關在の咽喉たるによりて昔時關門を搆へて行人を檢せし地なるが同時にまた風勝を以て著はる全山到る處温泉あり湖水あり溪流あり瀑布あり舊跡あり神社の壯麗あり加ふるに大氣清爽にして寛に閑雅幽邃の趣に富む身一度この地に入れば轉た仙境に徜徉するの感あらしむ

盛夏の候は繁榮を極め混雜を免れす故に靜かに保養せんとするには三月より六月及ひ九月より十一月の間に赴くをよしとす

足柄の山の神々心あらばあすの一日は雨な降らせそ　　泰宮殿下

箱根七湯等泉質種類

各泉質

鐵泉には單純泉は「湯本」「宮島」鹽類泉は「底倉」「宮の下」「木賀」「塔の澤」酸性泉は「上下仙石」「强羅」「小涌谷」硫黄泉は「蘆の湯」「湯の花澤」炭酸冷泉は「阿字池東北岸」なり

各地への道程

温泉各地への道程

湯本より塔ノ澤「五町」　塔ノ澤より大平臺「一里」　大平臺より宮の下「十五町」
宮の下より堂島「五町」　宮の下より底倉「二町」　底倉より木賀「八町」
底倉より小涌谷「十六町」　小涌谷より上强羅「十四町」　上强羅より大涌谷「二十二町」
大涌谷より姥子「八町」　小涌谷より蘆の湯「一里」　蘆の湯より湯花澤「八町」

湯本温泉

湯本温泉

箱根七湯の入口にして群山の東麓早川の南岸にあり南方には石垣山、石橋山を眺望し、西方には湯阪山あり。其麓より温泉湧出す。其色水晶の如く透明なり泉質は單純泉にして少しく鹹味を含めり。

玉櫛笥箱根の山の松かせになつなき宿そうらやまれぬる　松本春嶽

矢立杉の蹟

矢立杉の蹟　白地藏より本道へ戻り三町程東に進みたる三枚橋の下口にあり古へ戰將陣に赴くとき軍の勝敗をトせんとて此樹に矢を射立てたりと云ふ。

復仇に赴くとき又此杉樹に矢を射立てたりと云ふ。

見るからに憂とそ増れ足曳の矢立の杉に殘る紀念を　曾我兄弟の母

つねよりも又ぬれ添し袂かなあかぬ別れの後の涙に　大磯の虎

旅館

（旅館）「萬翠樓」事福住九藏を最とす。（箱根湯本にては有名なる舊家なり）。

「小川萬右衛門」福住の西隣りにして湯坂山の崖下にあり晝食にも宿泊にも便宜なり。

早雲寺

湯本温泉より須雲川を渡り改道を登ること一町許りにして達す。金湯山と號す。早雲の木像を安置す。其製作年月日詳ならざれども容貌俊秀たる實に其人を想像するに足るべきなり。

湯本より各地への里程

湯本玉垂の瀧　箱根三橋の一なる三枚橋等名所の一として數へらる。

湯本より各地への里程。塔澤五町。宮の下一里二十町。堂ヶ島一里二十町。底倉一里二十町。木賀一里三十町。小涌谷舊道一里三十二町。新道二里四町。

塔澤温泉

塔澤温泉

湯本より早川に沿ひ登り行くこと僅かに五町にして着す。東北の間には塔の峰高く雲表に聳え西南には湯坂山の城山併立し。西北は松尾山。明星嶽の山脈連帶

阿彌陀寺

し山勢四方より迫れるを以て眺望等は湯本の如く開豁には至らざれども四面突兀たる巉巖屹立して風光頗る佳なり。

塔の峰にあり。玉の湯より十七町なり。此の寺は淨土宗にして放光明律院と號す。古昔阿育大王か八萬四千の寶塔を造りたる時、佛舍利を安置し普く分布したるが、我國には三ヶ所ありて即ち當山は其一なりといふ。

旅館

（旅館）「洗心樓」「玉の湯」を初めとし「塔の澤ホテル」。「一の湯」小川。「環翠樓」鈴木。「福住樓」長谷川。「新玉の湯」長谷川。等あり。

宮の下温泉

宮ノ下温泉

塔の澤より路程一里十五町にして着す。數年前までは道路險惡にして特に七曲と呼へる嶮阪なりしが今日にては車道を開きて大に旅行に便となれり。道路は山を繞り谷を廻り春は斷崖絶壁に躑躅花を開きて山腹には櫻花爛熳たるあり。夏は涼風腋下に生し思はず歸郷を忘れしむ。秋は滿山紅葉して錦を垂れたるが如く溪山の風景筆にも畫にも盡し難し。塔の澤より登り行くこと十二町にして常磐瀧あり。太平臺に富士見亭と云ふ休憩所ありて富士の白雲を眺望し。夏尚ほ雪を噴くの觀あり。

宮ノ下は箱根の中心とも云ふべき處なり海面を拔くこと凡千百二十三尺にして駒ヶ嶽、早雲山、蓬萊山等を眺望し。東方には相州灘を遙望す、

此地鑛泉は「三日月湯」「熊野湯」「明治湯」「富士の湯」「吉田湯」「瀧の湯」等あり、「三日月湯」は箱根の靈湯にして萬壽二年に開始したりといふ。

三條實美公が宮ノ下行幸のをりよみて奉れる

はゝかりて暑もよそによきぬらん君が出湯の心すゞしき

宮下より各温泉地への里程

湯の澤まで一里十四町	塔の澤まで一里十五町	姥子まで一里十八町	
湯本まで四里二十町	大涌谷まで一里九町	小涌谷まで十八町	

木賀まで十町　　堂ヶ島まで四町半　　蓮の湯まで新道一里三十町

旅館

（旅館）「奈良屋兵治」を初めとし「富士屋ホテル」「龍雲館」安藤。等の三戸あり内「龍雲館」は一名「藤元」といふ大閣湯と稱す昔太閤秀吉小田原陣の時入浴ありし名湯にして家は山に沿ひたる五段の建築にして四方の風景眺めあくことなし。

堂ヶ島温泉

堂ヶ島

宮ノ下より數町にして達す。堂ヶ島に到るには太平臺より十三四町往き、宮ノ下より一町半程手前なる「しのぶ塚」の碑のある處にて人力車を降り右に折れ阪道を五町程下れば堂ヶ島に達す。此地綠樹杖を交へ風色幽邃にして早川の對岸に明星ヶ嶽峙立し麓には白糸の瀧ありて一匹の白練を曳くに異ならず。山水風光畫の如し。

堂島口占

大槻磐溪

地名堂島定何絲　磐石垂羅立老禪　變有緇衣浣塵士
幾條亂下素絲泉　奇岩出沒澗流喧　千仞斷崖雲樹繁
非有靈泉醫痼疾　誰尋谷底數家邨

旅館

（旅館）「近江屋」「大和屋」の二軒にして兩家とも近年新室を設け結構甚た雅致なり。

底倉温泉

底倉温泉

宮ノ下と同しく箱根の中央の地にして宮の下に接すること二町なり。海面より千百六十餘尺にして高きに失せず低に過ぎずして溪水は早川の清流に會し東南には層巒疊嶂する間遙かに相模洋の蒼波眞帆片帆の風に孕めるを臨み山水の風景絶佳なり。

此地に到る別路は東海道松田驛に下車し人力車にて道了山下に達し最乘寺に參

詣し更に明星ヶ岳を越へ宮城野に出て、此地に達す、又御殿場驛にて下車し乙女峠(富士遠望の好適地)仙石原村宮城野を經て此地に達す。

深みどりこける青葉の底倉にすゞしき風はたちおこりつゝ　美　静

旅館

(旅館)　蔦屋(涵翠樓)。梅屋(魁春樓)。仙石屋(仙石)等にして何れも湯瀧あり。「蔦屋」は蛇骨川の左岸八千代橋畔にありて蒸湯、腰湯等を設け眺望また佳なり。「梅屋」は三層樓にして別風呂あり風色また佳し。「仙石屋」は吹上湯を有し同家の三層樓は風景絶佳なり。

木賀温泉

木賀温泉

底倉より路程六町にして元は道路險惡なりしが今は新に車道を開きたるを以て平坦なり。途上に白鷺瀧ありて三面巒峰は巍々として白雲に表れ東南の一方は稍々開けて溪流清々潺々乎として山水の眺望恰も白帶を流せるが如く快哉を叫ばしむ。

旅館

(旅館)　「瓜屋清二」、「仙石屋房五郎」の兩家のみなり。此地は明治二十五年火を失して殆んと焦土となりたるも追々浴舍の再築あれば漸々舊觀に復すべし。

小涌谷温泉

小涌谷温泉

宮の下より舊道の路程凡十六町にして達す。底倉の浴舍の後より凡三町許り往けば兩道あり谷へ下れば「二の平」にして左の新道を上りて蛇骨川の上流を渡り過れば蓬萊山(二石出山)の麓に出つ是れ則ち小涌谷なり。

小涌谷は七湯以外の新温泉場にして海面より凡二千尺にして眺望開豁にして春は一と目一萬本の稱ある吉野櫻と共に早咲きの岩躑躅も晩咲の赤つゝじ近傍の諸

山を彩り夏時涼風吹き來り明星ヶ嶽、明神ヶ嶽と相對し朝夕山谷に雨霧起りて一日中に風景度々變することあり。又當地には千すじの瀧あり巾十五間に餘りありて頗る壯觀なり。此地は元小地獄といひ大涌谷を大地獄と稱したりしを陛下御臨幸の折り共にかくは改稱したるなり。

旅館

（旅館）「三河屋ホテル」橋本。「開花亭ホテル」の兩家なり。開花亭は西洋人のみを客とす。

蘆の湯溫泉

芦の湯溫泉

小涌谷より舊道凡二十八町にして元は通路嶮峻なりしが近來修理したるのみならず此地に來るに一里五町の新車道を開通せしを以て交通大に便となり婦女と云へども容易に至るを得なり。途中池尻と云ふ處に清水噴出し其色水晶の如く透明にして此處に休憩所あり此より十三町登れば蘆の湯に着す。西方に二子山、東方に辨天山、北方に穂無平山ありて四方の濃翠休するが如し。此地も高山の習として一日の景色屢々變することあり。

肌霧似煙還似雨、　霏々漠々又粉々、　大崔詩佛
去作前山一帶雲　須臾風起吹得去、

旅館

（旅館）「紀伊國屋」川邊。「松阪樓」松阪。の二軒なり。兩家とも眺望佳なり紀伊國屋は三層樓にして頗る美觀なり。

湯の花澤溫泉

湯の花澤溫泉

此地も七湯以外の溫泉場にして此地こそ箱根山諸溫泉場の中最高處にして海面より三千三百餘尺なり其登り口は蘆の湯より約八町にして達す。又小涌谷溫泉より「二の平」の方へ進みたる處より登れば十四町なり。

此地は盛夏と雖も涼風肌を透し遙かに相摸洋の蒼波白帆を望み房總二州と相對し風景畫にもかゝれず。

旅館　（旅館）「花の湯」依元清二の一軒なり。

姥子温泉

姥子温泉

此地も七湯以外の温泉場にして通路は徒歩に困難なれは元箱根又は箱根町より舟にて湖水を渡らば湖尻に達すべし。

湖水の舟行たるや最も愉快にして且つ便なり。蒼々たる樹木翠を含み奇石怪岩將に水に落ちんとし眞に壯絶快絶たる奇勝なり。

船賃は一定せざれども一人舟子にて凡五六十錢位なり、又此温泉は眼病に特効ありとて來浴者多し。

箱根路や山手は山のそは立て水海遠く仰く不二の根　松平慶永

旅館　（旅館）西村秀作の一軒のみなり。

温泉場は如上の外仙石原温泉。强羅温泉の二ヶ所ありて。何れも盛夏の候には來浴する者多し。

名勝古蹟

正眼寺

今此處に蘆の湯より舊道凡二十數町許りの通路に沿ひたるもの及び元箱根附近等數多あれとも悉く此れを記すべからず然れども之れを棄つるに忍びざるまゝ二三を大略斯くは記しつ。

箱根舊街道に禪刹なる正眼寺あり寺中に兄弟の木像ありて位牌を備ふ十郎祐成の口は「高崇院殿峰巖良雪大禪門」五郎時致の口は「鷹嶽院殿士山良富大居士」と記され祐成位牌の裏面には建久四年五月二十八日と命日を記し時致位牌の裏面には建久四年五月二十九日と一日違ひにて記されあり。

曾我兄弟墳墓

曾我兄弟墳墓、蘆の湯より行くこと五六町にて小笹の中に大なる二基の石塔あり、之れ兄弟の墓なりと云ふ、又傍に小き石塔あり虎の墓なりと云ふ、

二十五菩薩

二十五菩薩。曾我兄弟の墓より半町許りの右側にあり弘法大師作二十五菩薩ありて記したる石標あり又竹叢の中に大岩ありて之れに地藏尊と彫刻したるものありて世人其像を敎ふる毎に其數同しからず其他「風穴」多田滿仲墓、石地藏、御狀石等あり。

元箱根村

元箱根村、は蘆の湖の東岸にある一村なり戸數四十戸許りにして天然の美景頗愛すべし。

箱根神社

箱根神社、箱根權現なり祭神は瓊々杵尊、彦火々出見尊、木花開耶姫尊を祀れり曾我十郎、同五郎が復仇に赴く途祈願したる社なり後ち兄弟が工藤祐經を討ち し微塵丸薄綠の太刀及ひ赤木の短刀を源頼朝より奉納せり今に當社の寶物とす。

千早振神の誓のたかはすば親の敵に逢瀨たまはん　十郎祐成

天降り塵に変はる甲斐あれば明日の敵に逢瀨たまはん　五郎時宗

乙女峠

乙女峠、仙石原の西方一里許りにして富士遠望の好適地にして一名十國峠とも云ひて伊豆、駿河、遠江、甲斐、上野、下野、上總、下總、安房、武藏、相模の十國を一眸に改む依て之の名あり。浴客は一度は杖を曳かざる可らず。

大涌谷

大涌谷、凡十二三町の一大澗谷にして處々に硫黄湧出す赤黑白綠等樣々の色をなし其有樣いと凄しく試に杖を以て穿てば熱湯噴出して毛髮悚然たらしむ。

歸路

歸路はもときし路をとりて湯本より電車「國府津」より汽車にて「新橋」へ歸着するもよろしからん然れとも成るべくは他方面へ向つて歸路につんくが面白しといふべし今茲に項を分ちて參考とせん

箱根

(一)底倉より木賀へ出て宮城野に至り明星ヶ嶽の中腹を通りて堂ヶ島より宮ノ下に出て湯本より電車國府津より汽車

(二)木賀より宮城野仙石原を經て十國一覽の稱ある乙女峠に至り富士の絶景を

眺め御殿場驛へ出て同所より汽車

(三)蘆の湯より二子山、駒ヶ嶽、鞍掛峠を經て蘆の湖の舟遊をなし姥子より仙石原乙女峠を經て御殿場より汽車

(四)木賀より二の平、小涌谷より千條の瀧鷹巣山を經て淺間山より宮の下に至り湯本より電車國府津より汽車

(五)底倉より宮城野に至り山越しにて道了山最乘寺に參詣して關本、塚原を經て小田原に至り同所より電車にて國府津より汽車

(六)底倉より箱根町に至り乙女峠の富士の絶景を賞し熱海に下りて人車鐵道にて湯河原伊豆山等の溫泉地を經て小田原に着し同所より電車にて國府津より汽車

(七)底倉より乙女峠を越えて御殿場に赴き其れより富士登山を試み御殿場へ歸着同所より汽車

歸路

(以上國府津より乘車の分は往復券有効なれとも御殿場より乘車の分は其差額を支拂ふなり)、

歸路國府津より發車時間は「前五時十三分發同七時三十五分着」前六時十分發同八時三十分着」前六時五十分發同八時四十三分着」前七時二十三分發(最急行一、二等)同九時着」前八時十五分發同十時三十五分着」前九時八分發(最急行三等)同十一時着」前十時三十一分發(急行二、三等)後十二時二十五分着」なり午後は十二時四十分發にて後三時二分着」其他　發車時間は後二時五分發、同三時二十分發、後四時四十分發、後五時四十四分發、後六時二十五分發、後七時七分發、(最急行一、二等)七時四十分發、後九時發等なり

「箱根」費用及支出概算

▲汽車賃

新橋停車場より國府津停車場まで(片道)

三等貸金七十九錢　二等貸金一四二十錢　一等貸金二四

▲電車賃

國府津より小田原を經て湯本まで(片道)

三等貸金三十一錢　二等貸金六十三錢　一等貸金九十五錢

▲毎土曜、日曜及び大祭祝日の前日當日並に七月一日より九月三十日まで十一月一日より同三十日まで十二月二十五日より翌年一月十日まで「新橋」品川」横濱」平沼」より小田原湯本まで汽車電車聯絡十四日間通用往復割引乗車券

新橋より小田原行（國府津より電車）

二等貸金二圓六十八錢　三等貸金一圓五十三錢

同　湯本行（國府津より小田原を經て）

二等貸金三圓十六錢　三等貸金一圓七十七錢

品川より小田原行

二等貸金三圓四十八錢　三等貸金一圓四十五錢

同　湯本行

二等貸金二圓九十六錢　三等貸金一圓六十九錢

（此地の旅館は皆温泉旅館なれば一週乃至三週滞在するものあり從て貸室料宿泊料食料等の上中下の區別も定まりならざれども大概左記の如く決定しあれり）

▲「湯本」萬翠樓（福住九藏）「電。湯本二番」「茶代廢止」

○宿泊料

一等金二圓十五錢　二等金一圓四十錢　三等金一圓

○食料

一等金一圓十五錢　二等金八十錢　三等金五十錢

但し寢具を特に好むときは幾分か增額あり

○席料　金五十錢以上好次第なり

一泊は一日分申受く但し翌日遲く出發するときは割增料を出す休憩は三分の二を申受く

滯在の者は左の割引あり

○二泊以上　一割五分引　○五泊以上　二割引　○十泊以上　二割五分引

十五泊以上　三割引

毎年七月下旬より九月上旬まで割引二割に止め其以上は割引なし

▲「塔ノ澤」環翠樓「鈴木」（電。湯本三番）

○宿泊料

一等金二圓　二等金一圓七十錢　三等金一圓三十錢

○食料

一等金七十五錢　二等金五十錢　三等金三十五錢

▲洗心樓「玉廼湯」（電。湯本四番）

○宿泊料

特等金三圓　一等金二圓　二等金一圓　三等金五十錢

○賣食料

一等金一圓　二等金七十五錢　三等金五十錢

▲玉泉樓

○貸室料　特別勉强を以て夏期中と雖も申受けずとの事

○宿泊料　金一圓より金一圓五十錢位まで

○賣食料　金六十錢(二品付)其他上下數等あり

共他遠足團體等は相當の割引あり

▲「堂ケ島」近江屋(電。宮下十二番)

○宿泊料　賣食料共金八十錢以上金三圓位まで

團體小學生は金三十錢以上　中學生は金四十錢以上　(一泊朝夕食事翌日賣の辨當付)

○貸室料　室により金五十錢以上金二圓位まで

▲「蘆の湯」遊仙閣「紀伊國屋」(電。宮下三番)

○宿泊料

特等金二圓　一等金一圓五十錢　二等金一圓二十錢　三等金八十五錢

○賣食料

特等金一圓　一等金七十五錢　二等金五十錢　三等金三十五錢

外に療養等の爲め滯在の者に限り左の規定による

一日分金七十五錢及び金一圓位まで(三食其他共)

其他御伺と申し席料、温泉料、夜具料を申受け食料は好みにより調理す、

▲「小涌谷」三河屋ホテル(電。宮下五番)

○宿泊料

上等金一圓八十錢　中等金一圓三十錢　下等金一圓

○賣食料

上等金七十五錢　中等金五十錢　下等金三十錢

夏季は一室につき金七十五錢より金二圓五十錢までの席料を申受く

▲「底倉」富士屋ホテル

○宿泊料　一泊金六圓五十錢より金十八圓まで(三食付)

▲「底倉」(蔦屋)澤田さく(電。宮下六番)「茶代謝絶」

(一式宿賄一人一日分)

等級	待遇	夏 七月十五日より九月一日まで	春秋冬（夏を除きたるとき）
特甲	三等室、夜具木綿一、二品、普通風呂	一圓十錢	一圓
特乙	二等室、夜具木綿一、二品、普通風呂	一圓四十五錢	一圓二十五錢
1	一等室、夜具木綿二、三品、普通風呂	一圓八十五錢	一圓五十錢
2	特等室、夜具綿布二、三品、別風呂	二圓六十錢	二圓
3	特等室、夜具綿布二、三品、別風呂	三圓三十錢	二圓五十錢

（三食宿賄）席料其他ハ申受ク

等級	献立	夏期 七月五日より九月五日まで	春秋冬
特等	三品、又四品	一圓八十錢	一圓五十錢
一等	二品、又三品	一圓二十錢	一圓
二等	一品、又二品	九十錢	八十錢
三等	一品、又二品	六十五錢	六十錢

旅籠料（二食一泊）一人一日分

等級	待遇	夏期	春秋冬
甲特等	特等室、夜具綿布三、四品、別風呂	二圓五十五錢	二圓
乙特等	特等室、夜具綿布二、三品、別風呂	二圓二十錢	一圓七十錢
一等	一等室、夜具木綿二、三品、普通風呂	一圓三十五錢	一圓十五錢
二等	二等室、夜具木綿一、二品、普通風呂	一圓十錢	九十五錢
三等	三等室、夜具木綿一、二品、普通風呂	九十錢	八十錢

晝食料一人分

二食(朝晝)一人一日分

等級	献立	夏期	春秋冬
特等	三、四品	一圓七十五錢より	七十五錢
一等	二、三品	六十錢	五十錢
二等	一、二品	四十五錢	四十錢
三等	一、二品	三十五錢	三十錢

等級	献立	夏期	春秋冬
特等	三、四品	一圓五錢	九十錢
一等	二、三品	七十錢	六十錢
二等	一、二品	五十五錢	四十五錢
三等	一、二品	三十五錢	三十錢

其外春秋冬期に於ける學生團體の宿泊料雲辨當料共一人前金五十錢以上
但人數の多少食品如何により金四十五錢にて賄す

▲「國府津」蔦屋德太郎(電。國。四番)

○宿泊料
上等金一圓六十錢　中等金一圓四十錢　下等金一圓十錢

○晝食料
金五十五錢より金六十五錢位まで

○貸室料　一戸建家屋金十三圓より金二十三圓まで(但夏季は殆んど倍額)
一戸建の外一室は一日金十錢より金二十五錢まで(夏季は金四十錢位)
「蔦屋」第一の別莊は「瑞勝園」第二の別莊は「海望園」なり

▲「小田原」小伊勢屋(電。小田。四五)

○宿泊料
一等金一圓七十五錢　二等金一圓二十五錢　三等金八十錢

順路

湯河原　伊豆山溫泉＝清瀧＝不動の瀧＝賴朝隱れ大杉＝熊野權現

集合地　新橋停車場　**集合時間**　午前六時半

△午前七時二十分(國府津行)にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「蒲田」「川崎」「鶴見」「東神奈川」「神奈川」「横濱」「程ヶ谷」「戸塚」「大船」「藤澤」「茅ヶ崎」「平塚」「大磯」「二の宮」の各停車場を經て午前九時四十分「國府津」停車場に着す(次の列車は午前八時三十分最急行(一、二等にて)前九時五十四分着す)(次は前十時十分發にて後十二時三十分着す)(四七哩　二時間二十分)

△國府津にて小田原電氣鐵道に乘換へ午前十時十四分國府津停車場を發し同四十三分小田原停車場に到着す、小田原電車停車場附近にて晝食をすまし午後一時五十分「軌道鐵道」熱海行電車にて小田原を發し「石橋」「米津」「根府川」「江の浦」「岩村」「眞鶴」「吉濱」の各停車場を經て午後三時三十一分「湯河原」停車場に到着す(小田原より一〇哩八)

△毎年七月一日より九月十五日まで及十二月二十五日より翌年一月十日まで海濱廻遊割引券を發賣す(有効期限七日間)

△海濱行往復割引券毎年七月一日より九月十五日迄及十二月廿五日より翌年一月十日迄及び大祭祝日の前日當日毎土曜日曜に限り發賣す(有効期限三日間)

湯河原

豆相人車鐵道の便にて此地に達す停車場より溫泉までは約二十町にして歩行難からず、此地は海面を拔くこと五百尺の高地にして空氣清淨四時の光景に富み且つ兩面巉岩竝立して宛然屏障を繞らせるが如し潺々たる急流中央を貫流し風景頗る佳なり氣候溫和夏季最涼しく極暑八十度を超へずといふ實に夏知らずの好避暑地なり。

日清及日露戰役に際し陸軍は此地に轉地療養所を設け傷病兵を浴せしめしが著しき効驗を奏したる者其數萬を以て數ふべし、此風土の他に勝れ溫泉の奇効ある事は之れに依て明かなるべし。

鑛泉は湧出口則ち元湯の異なるに從て其成分多少の差異ありと雖も一般無色澄明にして稍々鹹味を帶び(アルカリ)性の反應を呈すといふ明治三十七八年戰役中東京豫備病院に於て試驗せる鑛泉分析成蹟表を掲ぐれば左の如し。

湯河原鑛泉分析成蹟表

理學的檢泉表

採集番號	色	臭	味	清濁	淨遊物	比較	泉名
壹號	無名	ナシ	微鹽樣	透明	微量	一、〇〇七六	河下ノ湯
貳號	同	微ニ25臭チH有スル	同	同	同	一、〇〇七一	上ノ湯
參號	同	ナシ	同	同	同	一、〇〇七〇	南岸ノ湯

化學的鑛泉分析表

採集番號	反應	蒸發殘渣	硅酸 Si02	格魯爾	硫酸 So3	燐酸 Po5	加爾臭謨 CaO	麻倆涅臭謨 MoO	加里 K2O	曹達 Na2O
壹號	微亞性	二、四三〇	〇、〇九六	〇、八九四六	〇、三五八三	〇、二二九	〇、一七五六	〇、〇六〇〇	〇、三五〇五	〇、四七五五
貳號	同	三、〇八六	〇、〇四三	〇、七六八	〇、三七三二	〇、二〇三四	〇、一八四七	〇、〇五八一	〇、二六〇	〇、四一三〇
參號	同	二、〇三〇	〇、〇一一	〇、六九五八	〇、三〇一三	〇、二三四七	〇、一四五六	〇、〇二四〇	〇、二五五〇	〇、三一六〇
平均	微亞性	二、五〇八	〇、〇四九	〇、七五九	〇、三一〇八	〇、二四三	〇、一六七九	〇、〇四四〇	〇、二六〇四	〇、四〇一八

平均	無名		微鹽樣	透明	微量	一、〇〇七三	

一里篤兒中含量　密瓦

備考

一化學的檢泉中硫酸硅酸は無水物の形にして加溜謨那篤溜謨其他の金屬は各其酸化物の形に於て計算せり。

一溫度は時々變更するを以て記し難し。

前表中壹號貳號參號とあるは壹號は湯河原溫泉場中最下部に湧出する河下の湯にして俗稱下の湯又は大湯とて此地に最も古き溫泉なり。

貳號は最も上部に在る上の湯、俗稱「儘根の湯」と稱す。

參號は溫泉上中央に湧出する南岸の湯なり。

効能　効能

胃病胃弱、打身、切疵、火湯瘍、疝氣、痔疾、淋病、外科一切、皮膚病侵秘症しんけい痛、痰持又は痰、僂麻質私、子宮病、骨の諸痛。

旅館　（旅館）富士屋、養津館、向盛館、岫雲館、箱根や、加藤、藤田屋等あり。

名勝舊蹟　清瀧高五丈巾三尺翠岸に懸り怪岩を擊ち其下には三伏の暑なかるべし。其他不動の瀧、熊野權現、見付松、十國望觀、湯河原公園、賴朝の穩れ大杉、土肥實平舊跡、湯河原八幡宮等あり。

伊豆山溫泉

伊豆山　湯河原より四哩余にて伊豆山溫泉に達す此地は伊豆神社のある所にて熱海の北一哩余あり、昔は大社にして關東總鎮守と號せしが中古以來漸々衰頽して現今は僅かに上の宮の舊體を存するのみなり、海岸には「走湯」溫泉と稱するありて旅宿數軒あり皆浴室に小瀧を設け夏日大に清涼を極む風光明媚眺望絕佳覺へず恍然たらしむ。此溫泉は腦病眼病等に効能あり（旅館）としては「相模屋」「江島や」「井の口」等あり歸途は伊豆山より僅かに一哩余湯河原より五哩余にて熱海より約四十分にて到着すれば是非熱海に到り一泊の上舟の强き人は東京灣汽船にて午後五時二十分熱海を發し翌午前三時十八分靈岸島汽船定繫場に着するもよし。

歸路

湯原河。費用及支出豫算

▲汽車賃

新橋停車場より國府津停車場まで(片道)
三等貸金七十九錢　二等金一圓二十錢　一等金二圓
○海濱廻遊割引券國府津横須賀往復貸金(七日間通用)
三等金一圓三十錢　二等金二圓十錢　一等金三圓五十錢
○海濱行往復割引券貸金國府津まで(三日間通用)
三等貸金一圓二十六錢　二等金二圓(一等券發賣せず)

▲電車賃

國府津より小田原停車場まで　片道貸金十六錢
小田原停車場より湯河原停車場まで　片道貸金五十錢
湯河原停車場より熱海停車場まで　片道貸金二十一錢
熱海停車場より小田原停車場まで　片道貸金七十一錢
湯河原停車場より伊豆山停車場まで　片道貸金十六錢
伊豆山停車場より熱海停車場まで　片道貸金六錢

▲汽船賃（熱海までの賃金を參考として掲ぐ）

東京鰐岸島より熱海まで　片道貸金九十錢
國府津より熱海まで　片道貸金五十錢　眞鶴まで貸金三十錢

○宿泊料

▲湯河原「養津館」

賄料一切金六十錢七十錢より八十錢九十錢一圓等以上種々あり

▲湯河原「富士屋」

○甲種宿泊料

此甲種は毎年(一月一日より十二月廿一日迄)實行す
取扱ひに二種あり甲を伺ひと云ひ、乙を賄と云ふ伺ひとふ食物は用の都度注文丈けを調進し座敷は好みの場所を選ぶ、炭電燈料等總て明細の拘定にて支拂ふ依て滞在の者は伺の方便利なり。

○席料（甲種）

十畳　一室　一日貸切　金七十錢ヨリ金壹圓五拾錢マデ
九畳　同　同　金六拾錢内外
八畳　同　同　金四拾錢ヨリ金七十錢マデ
六畳以下同　同　金貳拾錢ヨリ金參拾五錢マデ

別莊貸切もあり

○寢具料

一組一夜拾錢以上四十錢迄種々

○木炭及電燈料

一晝夜一室に付拾錢内外(但し暑中と寒中とは大に相違あり)

○溫泉料

一日一人前二錢五厘内外、特別一室貸切は壹圓以上席料は入込みなれど至極廉價なり

乙種賄料は次の如し

○乙種宿泊料（乙ノ一）

此乙種の一賄料は(七月一日より九月三十日迄)(十二月廿一日より三月廿一日迄)此期間實行す

左記の如く定む

取扱ひに二種あり甲を伺ひと云ひ、乙を賄と云ふ、賄とは宿の見計を以て食物を調へ夜具料溫泉料木炭電燈等の費用にて一日金何程と定む

○賄料（乙ノ壹）

賄とは溫泉料、食品、寢具、木炭、電燈料、席料割を以てす

一等賄　一晝夜一人に付　貳圓

貳等同　壹圓五拾錢

參等同　壹圓貳拾錢

四等同　壹圓

五等同

特等同

賄之等級に依り食品、座敷、寢具、其他總て相違有之且つ一人にて一室貸切なれば二等賄以上の事、三等以下は人數少數なれば入込み三人以上なれば一室貸切なり一二等と雖も混雜の場合は貸切せず

○乙種宿泊料（乙ノ二）

此乙種の二賄料は(四月一日より六月三十日迄)(十月一日より十二月二十日迄)此期間に於て實行す

取扱ひに二種あり甲を伺ひと云ひ乙を賄と云ふ

賄とは宿の見計を以て食物を調へ夜具料、溫泉料、木炭、電燈等の費用にて一日何程と定む

○賄　料（乙ノ二）

賄とは温泉料、食品、寢具、木炭、電燈料、席料割を以てす。

壹等賄 一晝夜一人に付	壹圓貳拾錢
二等同	壹圓
參等同	八拾錢
四等同	六拾錢
五等同	五拾錢
特等同	

伊豆山。費用及支出概算

▲井の口旅館

○宿泊料

上等金壹圓、中等金八拾錢、下等金六拾錢

○晝食料

上等金七拾五錢、中等金五拾錢、下等金參拾錢

熱海

大湯＝溫泉寺＝錦浦＝初島＝伊豆山溫泉＝荒宿濱海水浴

集合地 新橋停車場

集合地間 午前五時

△午前五時三十分（國府津行）一番列車にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「川崎」「鶴見」「東神奈川」「横濱」「平沼」「程ヶ谷」「戸塚」「大船」「藤澤」「茅ヶ崎」「平塚」「大磯」の各停車場を經て午前七時五十分國府津停車場に着す、（次の列車「前六時十五分發同八時四十八分着」「前七時二十分發にて前九時四十分着」「前八時二十分發同十時三十分着」「前八時三十發（最急行三等）前九時五十四分着」等あり）（四七哩、二時間二十分）

△國府津にて小田原電氣鐵道に乘換へ同十時十四分國府津を發し同十時四十三分小田原停車場に着す（小田原停車場は鐵道停車場より約八丁にして早川口にあり）

△小田原にて熱海輕便鐵道に乘換へ同十時四十分小田原を發し「早川」「石橋」「噛米」「根府川」「江ノ浦」「眞鶴」「吉濱」「伊豆山」「湯河原」等の各停車場を經て午後一時十九分熱海停車場に着す、

△海路は午後六時東京靈岸島汽船定繫所を出帆し翌朝五時熱海に着す、

△此汽船は靈岸島を發し「熱海」「網代」「伊東」「稻取」「見高」「阿津」等の各港を經て下田港に到着す(靈岸島下田港の間を往復するものなり)、

△或は海路國府津より汽船にて發し「小田原」「眞鶴」の各地を經て熱海に到着するもあり、

熱海

此地は溫暖にて夏秋兩期は來遊する者多し又冬は四十度を下らずといへば避寒として最適當の地なり、西方には日金山則ち十國峠あり西南方には念佛山あり北方には伊豆山あり遙かに富士の大峯の雲表に聳ゆるを見る、魚見崎、錦浦、初島等の奇勝一眸にあり。

往時は大湯の外六湯に過ぎざりしが現今は其數廿六に達せり此地穿つこと數尺にして如何なるところにても溫泉湧出す或は砂地より又は岩石の間隙より湧出す其質泉は大湯を除くの外皆同じ。

此地の大湯は定期噴泉とも云ふべきものにして我國には熱海を除くの外他になくして其熱湯と蒸汽とを一晝夜六度一定の時間に噴出す、其初め沸騰湧出するや雷鳴の如く響音地底に發して實に物凄き有樣にて轟々耳を聾す追々熱泉を噴出して最も盛に灑き出すときは一丈餘に達すといひ熱湯迸出し終れば蒸氣を噴出す漸くにして蒸氣衰ふれば又再び熱湯を灑き出し此の如くすること凡そ一時半なり

病氣療養の時季は夏期六七月の三ヶ月を最良とす、療法を施す時日は豫定し難きものなれども概して三週間を以て通則とす。

入浴度數　病症に依り異なれども老人は一日一度壯者は二三度とす時間は午前八時より午後一時を良しとす或は五時六時を最良とす、而して冬期寒さの候には夜間臨臥の際入浴すべし空腹のとき及び食後一時間を經ざる間は決して入浴すべからず。

噴氣館　今は賀茂第二御料地と成れり故岩倉右府噴氣の病に特効あるを知り土地を宮內省に買上げ明治十八年二月落成して開館す結構壯麗なり同二十四年四月當館溫泉宿組合一同へ下附せられしものなり。

分析表　日本鑛泉誌に曰く、大湯は鹽類泉に類屬し無色透明にして臭なく鹹味を有し食鹽、五、四〇九、格魯兒加留謨〇、三五四、格魯兒石灰二、八九三、格魯兒若土〇、〇一四五硫酸石灰〇、一三〇一三等なり。

効能　消化不良慢性胃カルタ腸加答兒肝藏痛氣管支加答兒等に最効あり

旅館　現今は四十戸あり其他旅人宿と稱して客を待つもの十三戸ありて合計五十三戸にして大湯を引き又は各所に湧出する溫泉を桶に貯へて浴漕に導く等あり、左に溫泉宿の大略を列擧す

本町(大湯)富士屋(石渡)　上町(大湯)相模屋(梅原)　上町(大湯)眞鹽館(內田)
中町(大湯)氣象萬千樓(樋口)　上町(大湯)熱海屋(岡部)　上町(大湯)坂口屋(杉崎)
上町(大湯)鈴木屋(鈴木)　東町(翠湯)小林屋(保田)　横町(大湯)香露館(鷗木)
仲町(尾張屋湯)尾張屋(野村)　坂町(風呂湯)岸田屋(岸田)　坂町(風呂湯)高砂屋(新居)
本町(大湯)山田屋(山田)　本町(大湯)鱗屋(對木)　小澤町(小澤湯)松屋

其他相摸屋江島屋の溫泉宿十數戸ありて、右の外村內共有の浴室ありて隨意入浴するを得るなり

河原湯　海岸に接し近傍皆な浴舍なり左は金成屋と前桝屋とす、左右には伊勢屋、東屋、中王屋、角玉屋ありて皆な手輕なる浴舍あり是れ公衆の隨時に入浴する者にして六七尺の浴槽を設け室の中央にあるを河原湯と云ふ、東南隅にあるを石の湯と云ふ、此の湯は「リウマチス」「痔疾」等を專とし其著しきこと其比を見ずと云ふ熱海にて云ふ醫治の望みなき「いさり行者」が歸りにはさつさと歩て行くと云ふ其

紀念とも云ふべき杖や傘や衣類などが澤山遺しありと。

名勝舊蹟

熱海は大湯其他の溫泉を以て有名なるのみならず名勝舊蹟等豐富にして且風景奇絶なる勝跡に富む世に熱海八景と稱するあり

八景

梅園春曉　引あけのもつと長かれ梅に月
溫泉寺松　春雨や去年のちりの綠たつ
來宮杜鵑　磐に身の梢隱れやほとゝぎす
横磯晚凉　風横に磯輪の浪のくれすゞし
初島漁火　しらぬ火や心つくしの網かせぎ
錦浦秋月　金波銀波影もにしきの浦の月
魚見崎歸帆　夕浪の千鳥を船のゆくへかな
和田暮雪　灯ともの麓は暮れて雪の山

溫泉寺

清水山と號し開山授翁宗弼和尚敕諡神光寂照禪師、又圓鑑國師なり圓鑑國師（即ち萬里小路藤房卿なり）此等には九條衣及び念珠等の什寶を藏す門前に天古松あり是れ授翁の手植なりと云ふ幹高く幽翠滴るが如し。

幾千代も朽ちぬ匂ひや松の花　蓼好

熱海より西南五丁餘の所にありて嶮峻なる山にして全山禿山なり

念佛山

念佛山の麓曾我濱にあり海上怪岩奇石多くして兜岩、烏帽子岩、霞岩、碁盤石等あり。西折すれば狗寶りと云ふありて岩腹に一個の空洞あり其の岩角は則ち霞岩にして一大門あり世に胎内寶と稱するなり、霞岩の次ぎなるは則ち有名なる錦巖にして海路と數町絶壁斷崖の内に一大洞窟あり洞中に岩石峭立して朝日と相映と錦の如し。

和田山
錦浦

海に面したる高山にして和田山に連續す眺望甚だ快絶にして總房武相の四州の諸山を雲間に望み錦浦の奇勝、初島の幽景、魚見崎の絶景双眸にありて宛然畫の如し

初島

東西八丁民家四十三戸あり海上の一孤島にして海路三里あり古は沖の小島と稱せしものなり。初木神社は島の西方樹木蒼々たる處にあり

興福寺

念佛山の麓なる和田村にあり海岸山と稱し寛永年間高名なる雲居國師の中興なり本尊は十一面觀音なり之れ藤房卿の守護佛と稱す

來宮神社

少彦名命大巳貴命、五十猛命を祭る境内幽邃にして杜鵑を以て其名あり八景の一に數へらる、

伊豆山

溫泉地にして伊豆神社のある處あり熱海に十八町なり古は關東總鎮府社となりしが中古大に衰頽したり。

此地は溫泉を以て其名高し、海岸にして風光明媚なり是非一度は來遊すべき地なり(旅館)相模屋には三大湯瀧及千人風呂と稱するあり、其他江の島や、井の口等あり

日金山

十國峠と稱し熱海より一里十八町なり東海道無比の絶景にして山頂まで二里餘にして達す。

若草や富士を見に行く日金山、

其他入山、天津山、丸山、上野山、業平井、不動瀧、雀島、綱代港、湯前神社、興福寺、大乘寺等の名勝舊蹟あり。

海水浴

荒宿濱、魚見崎の下辨天岩等を以て遊泳場に充つ年々來浴する者多し。

名物

樟細工、雁皮紙、同布織、鳩麥煎餅、溫泉飴、陶器、抽餅ポンス、固形溫泉鑵詰鹽から等あり。

各地への里程

此地より伊豆伊東まで五里下田まで十八里修善寺まで九里三島まで五里九町なり、網代港へは海陸共に二里初島迄は三里箱根迄は山路五里小田原迄は七里なり。

歸路

歸途は小田原電車にて熱海を發し一哩四なる伊豆山溫泉の風光を賞し五哩なる湯河原溫泉を浴し猶十哩を走て小田原に着し同地より國府津まで電車にて約三十分間にて着し國府津より汽車にて新橋へ着するもよし又は往路をとりて東京靈岸

島へ着するもよし、

熱海。費用及支出概算

▲汽車賃

新橋停車場より國府津停車場まで(片道)
參等賃金七十九錢、二等金一圓二十錢、一等金二圓、

▲電車賃

國府津より小田原まで(片道)賃金十七錢、小田原より熱海まで(片道)金七十一錢

▲汽船賃

國府津停車場より小田原停車場まで人力車賃金約金七十錢なり、東京より熱海まで下等賃金九十一錢、熱海より國府津まで金五十一錢、小田原より熱海まで人力車賃一人挽凡金一圓以上

○宿　泊　料

氣象萬千樓(細口)此の蒸風呂は人造の蒸氣を用ゐたるものと異りて天然地下より發する蒸氣を以て造りたる所謂乾燥熱氣浴なるものなれば湯氣室内に充滿し熱滴頭上に落つるの憂なく而して其効能の尋しきこと未だ本邦に比類なき稀有の奇湯なり就中便秘賀斯には特効ありといふ

第一、自賄、第二、伺賄、第三、宿賄にあり

自賄とは自ら食物を調へ又は下婢を雇うて調へしむるなり

伺賄とは三食の料理すべき食物を宿より伺れを受けて調ふるなり食物に嗜好又は忌絶等ある人は二つの内を擇ばざる可らず

宿賄とは賄料一日何程と定めて食物を調理せしむるなり

自賄と伺賄とは座敷料夜具料等を別に拂ふなり夜具料は一夜金四錢より金十錢まで粗布夜具は金十五錢より金二十錢までとす

下婢は食物を與へて一週間金七十錢なり

宿賄料は箱根修善寺と大差なし

○入　浴　料

日出より正午まで金三錢正午より日没まで金一錢

四季に不拘ず鯛網(引網)は一網金三圓五十錢より金五圓五十錢までとす

▲相　模　屋

宿泊料は凡て伺賄となれり、席料入懸室金四十錢以上金八十錢夜具料金十五錢より金五十錢

雜費十二錢より三十錢。料理は一品十錢より三十錢にて客の都合を伺ひ賄ふなり

▲福島屋　(松尾宗兵衛)

宿泊料は金三十五錢より金五六十錢まで其他好次第

▲萬屋（河原湯）

宿泊料　金三十五錢より金一圓まで其他好次第

▲米倉三左衛門（小澤）

宿泊料　並等金四十錢、中等金五十錢、上等金六十錢

▲伊勢屋九右衛門（海岸通）

宿泊料　下等金四十錢、中等金六十錢、上等金一圓

▲眞誠舍（內田浮次郎）

宿泊料　一日三食座敷料夜具料共他一切下等金五十錢、中等金七十錢、上等金一圓、特等金一圓三十錢

伊東

猪戸溫泉＝出來溫泉＝和田溫泉＝湯川海水浴＝初島＝網代港

集合地　東京靈岸島汽船發着所　**集合時間**　午後五時

△（海路）　午後六時靈岸島汽船發着所を發し「熱海」「網代」等を經て翌午前七時二十分伊豆國伊東汽船發着所に着す、（此汽船は伊東より「稻取」「見高」「河津」を經て午後十二時四十分下田港に着するなり）或は汽車にて午前六時二十分新橋停車場を發し同九時四十分國府津停車場に着し此處より汽船にて「小田原」「熱海」「網代」に寄港して「伊東」に着す、發船時間は毎日午後一時國府津を發し午後四時伊東に着するなり。（海路を恐るゝ者は汽車の便に依るをよしとす今茲に一二を紹介す。）

△（陸路）　午前六時十五分新橋停車場を發し「平沼」「大船」「藤澤」「大磯」「國府津」「山北」「御殿場」「佐野」等の各停車場を經て同十一時七分三島停車場に

着し「豆相鐵道」に乘換へ同十一時五十分三島を發し「三島町」「大場」「原本」「北條」「田京」等の各停車場を經て午後十二時三十分大仁停車場に着し大仁驛より(冷川行き)馬車にて冷川に着し同所より二里半の新道を馬車又は駕籠の便にて伊東に着す、

△或は汽車にて「新橋」停車場を發し「國府津」停車場に着し此處より電車にて「小田原」驛に着す(此間三十分小田原電氣鐵道便)小田原より熱海輕便鐵道にて「江ノ浦」「湯ヶ原」を經て「熱海」に着す(此間約三時間)其より五里の山路を越ゆるか又は汽船便によるかなり、熱海より海路を取れば午前と午後との二回に發船して約一時間にして伊豆伊東に着す。

伊東溫泉

往昔は伊東の郷といふ、湯川、松原、鎌田、岡、竹之内、和田、新井の七ヶ村の總稱なりしが明治三十九年より町となりたるなり、古伊東入道祐親の根據地たりしを以て舊蹟頗る多くして且溫泉の効驗靈著なるを以て其名高し、位置は伊豆國の東北に位し南西北の三方は箱根天城等の支脈を負ひて西北風の烈しきを拒き常に清涼なる海風を受くるが故に氣候中和にして土地又廣濶なり前面には寺山天城山等の翠嶺送迎し松川を挾み風景の幽邃たる自ら塵垢を洗ふに堪へたり「松原」「玖須美」の兩區にありて商業地の觀を呈し而して近來溫泉瀕々として山溪、海岸等到る處に發見せられて百餘湯の多きに上りしと雖も古來より主要なるものは「猪戸」「出來」「和田」の三溫泉其名高し。

伊東溫泉

猪戸溫泉

松原區猪戸町にあり川西取扱所より一直線に往けば五六町にして猪戸溫泉に達す。溫泉は松原區共有にかゝるものと各溫泉宿の中に出へるものとの二あり何れも溫度百十八度なり。古昔は此邊は雜草の繁茂せる荒蕪地なりしが往々野猪の負傷せるもの皆な此の叢中に來りて傷所を癒するを見て始めて此處に金瘡に特効あ

る靈泉の湧出することを發見したりと云ふ猪渡の名蓋し之れが爲めなり後ち近來に至りて猪戸と改む近年大に繁盛となれり。

鹽類泉に屬す透明無臭なり成分及び量左の如し

分析表

格魯兒、硫酸、加爾基、（各多量）燐酸、硅酸、鐵、礬土、麻佛涅失亞、安瞑尼亞、那爲等合計〇、七四瓦

出來湯

松原區の西猪戸町にありて劇場より右に折れ行くこと二町にして達し猪戸の溫泉場を距る五町餘の處にあり此溫泉は寛永年間に發見せるを以て出來湯の稱あり。溫度は百二十二度なり此湯は靈泉と稱し泉質硫氣あるを以て刀傷、折傷に特効あり。出來湯の傍に「新湯」と稱する溫泉あり溫度百二十度にして湧出する量殊に多くして眼疾に特効ありと云ふ、往時は出來湯、新湯と稱し兩ヶ所に沿室を設け自由に混浴せしが近來之を改良して一大浴室を構造し一を出來湯とし一を新湯として二槽に分ち居ながら兩浴すべき便を得るに至れり。

和田溫泉

玖須美和田にあり松原區を距る八町餘、玖須美區濱町佐藤運漕店の向ひより數町にて達す此地は何れの地を開堀するも溫泉湧出す、泉質は同くして溫度百十三度なり、上湯、外湯、大坂湯、新湯の四泉を以て最とす、効能は痔疾、諸瘡、傳麻質斯等に特効あり。此溫泉は古へ戰國の難に一村頽廢して殆んと荒蕪に歸せしが慶長年間和田村々長之を開拓して移住せしむ名つけて出作地といふ溫度は此の出作地にあり依て湯名を和田湯と稱すと云ふ。

慶長年間此處に浴室を造り「御前湯」と名づけ江戸城に献湯したることありと云ふ、此頃江戸市中に於て豆州伊東の溫泉と稱へ大に藥湯の賞贊せられしは此の溫泉なり。

とはに沸く湯の氣かすみて鶯もまたき春知る松原の里　正風

分析表

鹽類泉に屬す褐色透明無味なり成分及量左の如し

硫化水素、格魯兒（多量）硫酸（多量）硅酸、鐵、礬土、加爾基、麻佛星失亞、

安謨尼亜、那篤倫、固形分等合計一、五六瓦、

湯田温泉

町の岡區瓶山の北麓にあり、此湯は溫度夏微溫なるを以て只た浴場となすものなし古は湯の池又は穴の湯と云ふ。

眼の湯

町の辰新田より湧出する溫泉にして眼の病に効能ありて入浴する者多し、其他新溫泉の數多くして地下十五六間も堀拔けば忽ち溫泉湧出するを以て現今にては其數七十餘に及ふと云ふ

入浴心得

(一) 入浴の時日は通常三週間を以て適度とす年々適宜の時期を撰み同泉に浴して二三年を繼續するを最良とす、

(二) 入浴回數は老人は一日一回青年者は二三回にして空腹滿腹のときを避くべし又初めは五分間位とし追々馴れて二三十分にて止むべし

(三) 入浴後は乾きたる手巾にて身體を拭ひ能摩擦すべし又晴天の時には必ず浴後運動すべし

効能

血液の循環を良良とし腺病皮膚病、胃病、梅毒、四肢關節の諸病等其効枚擧する能はず

旅館

此地往時は僅かに數戸に過ぎざりしが今は增加して三十餘戸の多きに至れり今左に列記すれば左の如し

△「猪戸溫泉場」若くは「松原湯端」の旅館に投宿せんとすれば左の如し

東京館、湯本館、桝屋、山田館、元猪戸館、新山田、旭や、富士屋、藤波、佐野郷屋等あり。

△「松原湯端」桑町、若松屋、「玖須美濱町」、「静海館、松原辰田、眼の湯等あり、

△「玖須溫泉場」の各旅館に投宿せんとすれば左の如し

伊東館、暖香園、美濃や、飾屋、大坂屋、櫻屋、金波樓、東屋、蔦屋、大和屋、藤本等あり

△「出來湯」前田屋、實來屋、

混同浴室は伊東町松原、湯川、玖須美等に各一ヶ所あり又辰の新田にも一ヶ所あり、

名勝舊蹟

夏の伊東は風光明媚四邊の快勝たる實に消夏の別天地にして金鐵を熔すが如き候と雖も此地に遊はゞ海水浴あり溫浴ありて夏なきの感あらしむ。

伊東十二勝

此地の遊覽地、名勝、古蹟等を列擧すれば左に記するが如し

旁子朝橡、萬見巨樟、扇山噴潮、松川殘照、五剎晩鐘、大崎歸帆、洞源秋月、音無夜雨、初島漁火、八津瀑布、鎌田炊煙、館趾孤松、

松原歸帆

此海濱は鰹漁の最も盛なる所にして漁船の大旗小旗を立てゝ船に獲物を滿載して歸り來れるまた勇壯快活なる見ものなり。

八津瀑布

松原區寺山の右方に接する高丘ありて瀑は其中腹にあり幅大ならざれども斷崖上り下り飛沫霰の如く其音蓼々として偉大なり兩崖の翠綠と相映發して更に風色を添ふ

鎌田炊煙

猪戸町より十八町なり昔時鎌田氏の城壁のありし處にて民は皆農業を事とす、實に此地は幽邃の仙境とも云ふべし

來宮明津

鎌田の鎮守神にて祭神は火產靈神なり境內に著名な大樹あり、

朝光寺

海上山と號す身延山、久遠寺の末寺なり寺境には櫻、楓、松、杉、梅等の老樹蒼々として幽寂なり、

日暮の森

岡區にあり音無川より西北四町許の田園中に老松古杉鬱蒼たり、これを日暮の森と云ふ森中に小祠あり八幡宮を祀る、里人傳へ曰く源頼朝八重姫と此森中に會合せんとて日を暮したりと云ふ故に日暮の森と名く。

鹿島明神

猪戸溫泉より松原を經て松月院の山門を下り數十級の石段を上れば一祠あり祭神は武甕槌神なり境內幽閑なり、老樹天を蔽ひ陰々たるあり賽者茲に至つて心神忽ち爽快なるを覺ゆ。

網代港

宇佐美村の北にありて行程二里、港は東西五町南北十町なり風景絕佳にて港內には巨艦百餘艘を停泊す根越の觀音堂、曹洞宗長谷寺は山を越ゆる東南にありて其風光筆紙に盡し難し。

葛見神社

古來伊東家の社也伊東町岡區にあり祠傍に老樟ありて幹內洞窟をなし容易に數人を容るゝに足るこれを十二勝の一なる葛見の巨樟とす。

年へたる楠の大木に此神の高きみいつもあふかれにけり、

佛光寺

玖須美にあり海上山と稱す日蓮宗なり伊東朝高の邸宅なりしを佛刹となしたるなり。

初島

東北三里にあり東西八町南北四町周回二十五町なりて海上の一孤島なり、海水清淨にして水底を窺ふべし島民夜々海上に出て毎舟漁火を點し網を曳く其景螢火の數群水上に遊ふか如し即ち伊東十二勝の一なり。此島には水仙花多くして其葉最大なるは五六尺なるありて我國にて嘗て見ざる花なり。

初見是巨鯨、島形恰相似、漁舟月昇未、火光涉秋水、大槻如電

伊東の地

豆州伊東は弘長元年北條時頼僧日蓮上人を此の伊東に流したるとき伊東朝高をして監守せしめたる處なり、日蓮上人後ち三年にして宥免されて還るを得たるなり朝高は日蓮上人を信し遂に薙髪して徒弟となれり日預上人これなり。

此地は又曾我兄弟仇討にて有名なる處なり伊藤祐親の嫡子河津三郎祐泰は元安二年十月八幡野山の麓にて賊殺せらる其子三人あり長男を一萬丸祐成、次男を箕玉丸時致、末男を御房丸と云ふ兄弟二人仇討の念一日も忘れずして遂に十八年の後ち建久四十一年五月二十八日源頼朝富士野にて獵せしとき夜に乘して狩屋に忍入り本懷を達したり、祐成年二十二歳時致二十歳なり頼朝は兄弟の志を賞し曾我莊の租税を免じたりと云ふ。

海水浴

湯川、松原、玖須美の海濱は水清淨にして波靜かなり海水浴場として夏季に至れば來遊する者多し、

其他、八幡神社、音無明神、葛見神社、東林寺、瓶山、伊東入道祐親の墓、佛光寺、佛現寺、妙昭寺、田代の野與、新井神社、亭子島、噴潮岩、萬烟の千本櫻、津浦、大室山、頼朝馬具足石、等枚擧に遑あらず

伊東。費用及支出概算

▲汽船賃(海路)

東京霊岸島より伊豆伊東まで　往路賃金金一圓二十錢
國府津より伊豆伊東まで　賃金往路金一圓十錢

▲汽車賃(陸路)

新橋停車場より三島停車場まで　(片道)三等賃金一圓廿六錢、二等賃金一圓九十六錢、一等賃金三圓卅錢　三島停車場より大仁停車場まで　片道三等賃金二十錢、二等賃金三十錢、一等賃金五十錢

▲馬車賃及人力車賃等

大仁停車場より冷川まで馬車賃　金廿二錢
大仁停車場より冷川まで人力車賃　金六十錢
冷川停車場より伊東まで馬車賃　金三十錢
冷川停車場より伊東まで駕籠賃　金一圓

▲伊東館(玖須美溫泉場)

○宿泊料

浴料には第一自賄第二宿賄の二種とす、
第一の自賄とは嗜好に適すべき飯食を調理す、
第二の宿賄とは一日の飲食物賄料何程と定めて食物を調理せしむるなり、
第一の方法の實費を仕拂ひ客室には大小上下ありて一定し難けれども大畧各一週間の價格八疊一間金二圓十錢六疊一間金一圓五十錢四疊一間金一圓四十錢位とす。
木綿夜具一組一夜金六錢より金十五錢まで中等夜具一組一夜金二十錢より金四十錢まで上等夜具一組一夜金三十錢より金六十錢まで。
第二の方法は飲食物一切、室、寢具等一日の費用を定むるを以て此第二の方法最便なり左に大略を記すべし

○宿泊料

上等金一圓五十錢、中等金八十錢、下等金六十錢、

○畫食料

上等金五十錢、中等三十五錢、下等金二十五錢
其他各旅館の宿泊料畫食料大略を定むる處は左の如し
上等宿泊料金一圓より金一圓五十錢まで、中等金六十錢より金一圓まで、並等金三十五錢より金六十五錢までとす、
上等畫食料金二十五錢より金五十錢まで、中等金三十五錢、並等金十五錢より金二十五錢まで

修善寺

獨活の湯＝河原湯＝眞の湯＝石湯＝松の湯＝乳兒の湯＝賴家、範賴墓

集合地　新橋停車場　**集合時間**　午前五時半

△午前六時十五分（大垣行）にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「平沼」「大船」「藤澤」「大磯」「國府津」「山北」「御殿場」「佐野」等の各停車場を經て午前十一時七分三島停車場に着し同驛にて豆相鐵道に乘換へ同五十分三島停車場を發し「三島町」「大場」「原木」「北條」「南條」「田京」等の各停車場を經て午後十二時三十分大仁停車場に着す、（次の列車は前九時發にて後一時五十五分三島着二時三十八分大仁着）（九二哩、五時間十五分）

大仁停車場より修善寺まで溫泉馬車會社ありて汽車發車毎に往復せり切符は大仁停車場に於て發賣す。大仁より修善寺までは僅かに一里八町なり此間道路平坦なれば沿道の古蹟を探り四方の風景を賞しつゝ徒歩旅行するも興味深かるべし

修善寺溫泉

豆刈田方郡にありて三面共に山を負ひ桂川に跨るこの川は源を桂谷に發し狩野川と合し達磐山より南流する松葉川と會し市街の中央を貫通して流る、此間の民家は溪谷或は高阜に居を搆へ風致最幽邃山水明媚の地にして各溫泉旅館は其左右兩岸に高樓を搆へ相連絡するに柳橋、渡月橋、虎溪橋の三橋を以てす避暑避寒の地として其名高く來遊する者多し。

此地は史上に有名なる蒲冠者範賴公が幽殺せられし地なるを以て世上に其名を知らる、大同二年始めて弘法大師此靈泉を發見し其後里民に其効驗著しきことを傳へたるを始とす、後ち天明年中修善寺二十二世、沒量大暴大和尚、獨鈷の湯を建て明治以來新泉を發見すること二十餘に及び追々浴場の設くるに至りて遂に今日の繁盛を見るに至れり。

時候は四季共に適度にして殆んど激變なく夏山青山綠陰より清風を送り溪流清

洌にして山水の眺め飽かず、冬は溫暖なる伊豆の地なれば寒風肌を犯すが如きは稀なり、暑中は京濱より溫度數度を殺ぎ寒中は五六度を加ふ、夏宵蚊帳を張るの患なし數多溫泉中にて交通も便にして加之泉質、氣候の善良なるものをあぐれば修善寺確かに其一に居る。

分析表

當溫泉の靈質は日本鑛泉に載するところは鹽類溫泉とすされは大島火山の餘脈、海底を潛駛し來るを知るとあり、其成分を記すれば左の如し

コロールナトリューム	〇、五七七五	コロールカリューム	〇、〇三九八
〃 リウサンナトリューム	〇、四一五五	ソンサンナトリューム	〇、〇一六六
〃 タンサンカルシューム	〇、一〇〇〇	其他數種なり	

効能

各種慢性リウマチス、消化機諸病、婦人生殖機慢性諸病、慢性各種神經病、呼吸機諸病、慢性皮膚病、重病後快復期等に特効あり。

入浴季節

一二月は防寒の客あり三四五月は春風駘蕩の時節なれば浴客雜沓し七八九月は避暑の遊客群集し十十一月は農隙の期なれば來客多し、病體靜養をなさんとならば一二月、六七月、十一十二月の間を最も好しとす。

入浴度數

壯者たりとも一日に三四回を最良とす建全たりとも五回を過すべからず、但し一回の時間は十分乃至二十分として、配膳の前後一時間を隔て入浴すべし空腹のとき飽腹の時は入浴すべからず。

溫泉名

古昔は「獨鈷の湯」、「坪の湯」、「中の湯」、「石湯」、「神の湯」、「乳兒の湯」の六湯なりしも今は桂川の兩岸岩石の間隙より湧出する溫泉の數今や三十有餘を以て算ふ

△共同溫泉

一獨鈷の湯	桂川の中央より湧出す溫度百四十度	一眞湯	古昔は坪の湯と稱す獨鈷の湯の北にあり溫度百四十四度
一河原湯	共同溫泉中最西にあり溫度百四十四度	一箱の湯	古昔は中の湯と稱す虎溪橋の南岸にあり溫度百八十五度
一石湯	渡月橋の南方にあり溫度百八十五度	一杉の湯	古昔は神の湯と稱す溫度百四十一度
一乳兒の湯	桂川の東南岸にあり溫度百八十五度	一馬の湯	蝦蟇關の側にあり洗馬の湯と稱す

△内湯

一東陽温泉　山内の者の外入浴を許さず

一菖蒲湯　古昔源三位頼政夫人菖蒲の前來浴せしを以て其名あり養氣館の邸内にあり

一花の湯　柏屋の内湯なり

一水月湯　滝の湯水月楼の内湯なり

一杉の湯梅の湯　杉湯館邸内にあり

一保生泉白糸泉　疑雨來館の内湯にあり

一菊園泉盤中泉香雲泉　菊屋の内湯なり

一雪の湯、桂の湯　養氣館の邸内にあり、共樂泉新菖蒲の湯之れ獨鈷の湯を引きたるものにして大同年間に發見したるを以て其名あり

一大同泉

一岩の湯　桂流館の内湯なり

一星の湯　虎渓館の内湯なり

一藤の湯　暗館の内湯なり

一明治泉　衛生館の内湯なり明治六年に發見す

此地より近傍なる温泉地を擧くれば左の如し。

附近温泉

船原温泉　此地より三里餘なり中狩野村上船原あり黴毒瘡毒等に効あり。

古奈温泉　上狩野村山中古奈の地にあり大仁及修善寺より共に三里にして船原より十八町なり

嵯峨澤温泉　上狩野内野原字嵯峨澤にあり此地より三里なり。

西平温泉　上狩野村湯ヶ島にあり嵯峨澤より十九町なり。

世古滝温泉　湯ヶ島落合の南十八町にありて落合温泉は湯ヶ島落合にありて世古滝より引用す。

旅館

旅館○「菊屋」野田修治「香雲樓」又名は「積翠樓」と稱す修善寺第一の旅館とす、渡月橋の正面に位し百有餘の客室を有す別に貸切湯の設備あり。

菊屋別邸を香雲深處樓と云ふ御幸橋の上流桂川の畔にあり邸内の中央に一閣あり之れ恐れ多くも明治四十一年四月　皇后陛下の御座所の榮を得たる處にして、明治四十一年一月皇太子殿下明治三十九年十一月皇孫殿下の御座所の榮を賜はりたる所にして宮殿下を初とし諸公の來浴せらるるいと多し。

菊屋庭園

菊屋庭園　本店の背後にある高地にして一萬有餘坪を有す東は嵐山西は見晴山に連接し園内樹木繁茂し土地頗る清淨にして山中富士見亭、一聲庵、

枕石亭等の小亭ありて遊客の小憩に適す。有名なる頼家の墓、指月殿、御庵洞の古墳等は此園内にあり。

○新井養氣館「相原憲太郎」邸内に菖蒲、桂雪、共樂、新菖蒲の五泉あり。範頼の墓頼家月見岡等其所有なり。

○野田屋疑雨來館「野田八郎平」白糸の瀧の上りにあり支店は虎溪橋畔にあり。

○淺羽樓、（對碧樓）、「淺羽保右衛門」有名なる大同泉ありて桂川に臨めり。

其他松屋、柳家ホテル、柏屋、萬屋、宇佐美や、仲田屋、四方樓、水月屋、江戸屋、湯川屋、大川屋、橋本屋等あり。

名勝舊蹟

名勝舊蹟　此地の名勝舊蹟等最多し今茲に附近の道程等につきて大略を擧れば左の如し。

眞葛山四町、不越坂五町、見晴山四町、横瀧森十八町、拈笑園五町、白糸瀧半町、蝦蟇ヶ淵半町、渡月橋半町、日枝神社一町、八幡神社十八町、正覺院一里半、範頼墓四町、嵐山四町、櫻ヶ岡三町、梅林十二町、月ヶ丘十八町、狩野川十九町、桂谷一里半、虎溪橋一町、廣瀧橋四町、熊野權現一町半、修善寺二町、指月殿半町、安達盛長墓八町、松竹洞五町、水晶山一里。

桂谷

桂谷は桂川の發源にして二樹の桂樹あり何れも千年以上の古木なること疑ひなし、是れ弘法大師が支那より携へ來りしもの丶枝葉を發したるものにして遂に今日に至れるなりと里人は云へり。

其他大芝山、眞城山、眞葛山、大白山、達摩山、伽藍山、不越坂、紙谷不動瀧白糸瀧、飛岩瀑、松竹堂辨財天、梅林、富士、虎溪橋、五柳橋、枕流橋、和田橋、廣機瀑、玉門石等あり。

其他修善寺十三境、十勝、八勝等あり。

△修善寺十三境

肖廬山、獨鈷湯、湯谷權現、山王社、耆闍窟大士窠、不動瀧、桂谷、驍籠谷

龍燈三松達摩關、船關、經籠谷。

△修善寺十勝

桂谷奔端、日枝疑翠、五柳爽凉、盧山晩鐘、虎溪秋月、獨鈷佛泉、搭峰懷古、嵐山春霭、越路歸樵、達摩殘雪。

源頼家墓

源頼家公の墓、指月ヶ丘經堂の左傍にあり、塔前に征夷大將軍源頼家尊靈、左に元久元年左に甲子七月十八日と刻みたる石標を建てたり、これ元祿十六年五百回忌に相當せるとき住職十六世筏山智船大和尚供養のために建立したるなり。

蒲冠者墓

蒲冠者範頼公の墓　桂川を隔て頼家の墓と相對し小山と稱する處にあり明治十二年小山清藏といふ者公の墓たるを確め石碑を建て墓標とせり範頼は從三位三河の守に任せられしが一言の尖より遂に荒叢狐狸の地に遺骸を葬るに至れり。

其他修禪寺古塲、日枝社の舊域、安達藤九郎盛長墓、狩野道一墓、御庵洞古墳、隆溪禪師の墓、指月殿、熊野神社、淨蓮瀧等あり。

歸途は「大仁」停車塲より三島を經て「佐野」停車塲にて下車し同所「瀑園」にて一泊し、其より「御殿塲」停車塲に下車し「富士登山」を試るもよく、「松田」停車塲より箱根廻りをなして「湯本」より電車にて「小田原」を經て「國府津」停車塲より汽車にて歸路につくもよし。或は「大仁」より「冷川」まで三里二十町馬車の便にて其れより二里にして「伊東」に着し同地溫泉に浴し「網代」まで三里三十町、熱海溫泉まで二里十四町「伊豆山」「湯河原」溫泉まで二里十九町にて各溫泉を巡遊して同所より「人車鐵道」十八哩にて「小田原」に着し同所より電氣鐵道七哩餘にて「國府津」に着し同所より汽車にて歸路につくも面白し。

修善寺。費用及支出概算

▲汽車賃

新橋停車塲より豆州大仁停車塲まで、（片道）貸金一圓四十六錢、二等貸金一圓八十六錢

三等賃金内際（三島まで賃金一圓二十四錢　三島より大仁まで賃金二十二錢　外道行税）

▲馬車賃

大仁より修善寺まで（片道）賃金十錢　雨天夜間たりとも割増せず

▲人力車賃

人力車は大仁より客一人分金二十錢　雨天夜行のときは三割増

吉奈温泉迄賃金五十六錢（三里十一丁）　冷川まで賃金五十六錢（三里十二丁）

船原温泉迄賃金五十六錢（三里十三丁）　湯ヶ島まで賃金六十四錢（三里三十三丁）

○宿泊料

▲（疑雨來館）は通稱野田屋ともいふ桂川の東南なる地を占め清氣の流通最宜し

湯槽は崖面を鑿開して泉を盛るが故に溫熱の保含に至りては水槽に勝ること遠し。入浴しながら蝦蟇潭の碧濃を清覽するを得又此水瑯夜を分たず淙々溪々として湧る壁宛然雙耳を洗ふが如し。今茲に「費用」の大略を記すれば左の如し。

○費用には三種の賄法あり第一は伺、第二宿賄、第三自賄とす。

○伺賄とは毎食嗜好を申出て調進を命ずるもの。

○宿賄とは一日何程と豫定に隨ひて調進するもの。

○自賄とは仮の外用品を取寄せ自ら調進するもの、

斯く三種あれば凡一日何程と定め難く一週に五六圓を費すもあり二圓を出でざるもあり一概ならざるなり然し、

第一は、通常の料にて一日金五六十錢、第二も一日食品並金三十五錢、中金四十五錢、上金六十錢、の三種あり此外に室料夜具料等あり。

▲「菊屋」野田修治（電。本店九番別店十番）

○宿泊料

特等金一圓九十錢　上等金一圓　中等金七十五錢　並等金五十錢

○晝食料

特等金五十錢　上等金三十五錢　中等金二十五錢　並等金十五錢

○右は一般標準に止り是れ以外好みに從ひ何程にても調理すべし最も定の賄料の際は料理人の都合の品により獻立をなし、多數の來客の内には病後の靜養の爲め滯在する者多數有れば隨て好の品も溜山ありて來客の迷惑失費を考ふれば主として俗に「御伺」と申す賄方にて時々有合せの品を旅館より申出て好みに依り注文をなし時價にて計算致す義なり。

○貸室料（一晝夜につき）

八疊間金二十錢以上金五十錢まで　六疊間金十五錢以上金四十錢まで

又下等なれば一畳夜七錢均一の部屋もあり又温泉は貸切別莊もありて料金は一棟金一圓より金五圓まで

○夜具料
　綿金二十五錢以上　　紬金十五錢　　更紗物金五錢以上金十二錢まで

○雜費
　炭一部屋に付一日八錢　　電燈同一夜四錢　　湯錢一人分一日金二錢

▲淺羽樓(對碧樓)淺羽保右衛門

○宿泊料
　上等金貳圓　　中等金一圓二十錢　　下等金七十錢

○晝食料
　上等金一圓　　中等金五十錢　　下等金二十五錢

▲五龍館柳家ホテル（電。二番）

○宿泊料
　上等金一圓二十錢　　中等金八十錢　　下等金五十錢

○晝食料
　上等金五十錢　　中等金三十五錢　　下等金二十五錢

伊香保

榛名神社＝榛名湖＝物聞山＝木曾神社＝二ッ嶽＝伊香保神社

集合地　上野停車場　　**集合時間**　午前五時半

△午前六時十分(新潟行)にて上野停車場を發し「日暮里」「田端」「王子」「赤羽」「浦和」「蕨」「大宮」「上尾」「桶川」「鴻巣」「吹上」「熊谷」「深谷」「岡部」「本庄」「神保原」「新町」「倉賀野」等の停車場を經て午前八時四十五分「高崎」停車場に着す（次の列車は前六時四十五分發にて前十時三十分前橋に着す）高崎、又は前橋より澁川まで鐵道馬車の便あり。

△毎年七月上旬より九月下旬まで十月中旬より十一月初旬まで上野より前橋間汽車賃、前橋澁川間鐵道馬車券、澁川伊香保間人力車賃、若くは馬車賃を計算したる通用十四日間の往復券を發賣することあり。

澁川よりの通路は縣道にして頗平坦なり婦人子供と雖も歩行困難ならざれば馬

車又は人力車の便をかるよりも寧ろ徒歩するをよしとす。通路の風景絶佳奇拔なる轉た仙境に徜徉するの感あらしむ。行くこと十七八町にして有名なる「御蔭松」に出づ、又數町にて「六本松」「櫻野」「大野」「長坂」等に到れば山野廣濶にして前に水澤山の峰頭萬綠の景色を眺望し數町にて地藏原に達す、此處は愈々高層にして遙望の美觀一幅の畫を展べたるに似たり、尙ほ登ること二三町にして物聞橋あり此れより伊香保溫泉場と稱す。

伊香保溫泉

伊香保は上野國群馬の西北榛名山の中腹にありて海面より高きこと約二千八百五十餘尺にして、三面共に開豁にして信越岩野の諸州數十里の外峻嶺大嶽双眸に落つ。此地は地質高燥なるを以て盛夏八十五度を超えず且つ蚊蠅等の虫類稀なれば古來より蚊帳を用ひず。

入浴時期

伊香保は有名なる炭酸泉にて四時入浴者絶ゆるとなし、又四季の名所にて春は櫻野の花を始とし五月は躑躅、藤、山吹等艶を競ひ榛名湖の「あやめ」物聞山の杜鵑共に其名高し、秋は湯元二ッ嶽榛名山等の滿山皆紅葉して艶陽の花に勝れり。

此地海面より高きこと三千餘尺にありて山の中腹にあり信越諸國の連山を双眸の中に收む、樹木鬱蒼として空氣極めて清淨なり、極暑の候にても八十四度を上らずと云ふ。

暑中八月は避暑客多くして混雜を極むれども四、五、六、七、九、十一月の七ケ月間は入浴に適す、溫泉の治療は適度に入浴するを以て始めて効能あるものにして猥りに入浴すれば反て害を及ぼすものなれば豫め入浴の回數と其時間とを心得ざる可らず、通常の人々は大概一日に始めの内は一二回位にして追々に增し四五度位までを極度とす、又其入浴時間は十分より二十分間位を最も適當とす、當溫泉は鐵と炭酸とを殊に多量に含有し居れば毎日適量に服すれば血液を增し消化

を補け貧血、胃病、子宮病、萎黄病、腺病、縷麻質斯、痛風等に効能あり。

入浴者は浴醫局設立しあれば同局に赴きて身體を診察せしめ入浴回數、時間等をたしかむるが肝要なり、湯治療養中は總て空腹を感ずる者なるが殊に此の温泉は胃の消化を補くるを以て食事を待ち兼ねて間食をなし胃腸を害することあれば能く注意せざる可らず。

分析表

△温泉分拆表

硫酸カリウム	〇、二二〇一、
硫酸カルシエム	〇、二七六八六
クロール・コケネシウム・	〇、一〇三五五
炭酸鐵	〇、〇一五八一
酸化アルミニユム	〇、〇〇三五六
燐酸	痕跡
無機物	痕跡
有機物	痕跡
硫酸ナトリウム(芒硝)	〇、一〇〇六七
クローム・ナトリウム、(食鹽)	〇、〇四六八〇
重炭酸ナトリウム	〇、〇八七九三
炭酸マグネシウム	〇、〇〇三〇五
炭酸亞酸化マンガン	〇、〇〇三五六
硅酸	〇、一五九三〇
硫酸	痕跡
プローム	痕跡
遊離及半結合炭酸	〇、七七九八〇

旅館

（旅館）　木暮武太夫を最とす「岫雲樓」、「掃雲樓」、「香山樓」「仁泉亭」、「稜流館」、「浴蘭堂」、「荻原」、等其他十數軒もあり。

名勝舊蹟

伊香保附近は名勝舊蹟等に富むを以て今茲に大略を擧れば左の如し。

榛名神社

祭神は「彦田支命」を祀る綏靖天皇二十七年三月の鎮座にして用明天皇元年に社殿を創立したりと云ふ、一の華表二の華表ありて拜殿、宏壯ならされ共彫刻又精巧を極むるあり、其他神橋三重塔、隨身門、瀧神橋等ありて境内幽邃閑雅なり。

表門より僅かにして榛名町に出づ今は戸數僅かに五六十戸に過ぎざれども市街清淨にして旅舍あり料理店ありて夏日は避暑客來遊する者多し。

湯元より榛名神社まで二里餘なれども風景又更に好く春は花、綠樹枝を交へ秋は秋草あり風色幽雅なる自ら塵垢を洗ふ、眞に現代の仙郷なり。湯元より岩崎橋を渡り天神嶺より下ること十餘町にして達す實に伊香保在留者は一度此地を踏まざる可らず。

榛名湖

一名伊香保沼といふ榛名の神の御手洗と稱す、東西十一町南北十七町周圍三十五町なり、伊香保富士、烏帽子山、髮梳山、掃部山、硯嶽等の諸山湖邊を繞る、山色湖面に倒映して風色實に無比、仙郷中の別仙郷とも云ふべし。

湖畔に酒亭ありて湖畔亭と稱し調理最も味ふべし、湖畔亭の西方に二貞婦の墓あり這は天正年間豪族木部彈正の室眞田家へ使者となりて歸路野武士の爲めに辱を受け遂に伊香保沼に投身して死したりと云ふ怨靈化して大蛇となり沼の主となり又從婦之に殉して蟹となれりと言ひ傳ふ。

物聞山

五月雨に伊香保の沼のあやめ草苅る人なみに朽や果てなん

唐衣かくる伊香保の沼水にけふは玉ぬくあやめをそひゝ　定家卿

市街の東南に屹立する小峯にして老樹蒼々たり頂上に小祠あり右を翠平左を秋葉神社と稱す、眺望絶佳なり遠くは赤城、白根、等の諸山を一眸に收め近くは利根、吾妻の二川を脚下に眺め、又た東南にあたる處に見晴しありて伊香保及高崎前橋兩市双眸の中にあり。

古來よりして杜鵑を以て其名高く伊香保八景の一に數へらる。

家ひとつ一聲きかばほとゝぎす物聞山に物は思はし　西行

伊香保なる物聞山のほとゝぎすにごらぬことに聞ゆなる哉　伊勢

湯元

溫泉の湧出地にして西入、鳥の地獄、吹上、竹筒、鐵槳等の八ヶ所より湧出する溫泉の名稱なり、春は櫻花爛熳として秋は紅葉滿山を晒すが如し。

二つ嶽

伊香保より西南一里許りの處にして雙峯雲表に屹立するを以て之の名あり、西北にあるを雄嶽、東南にあるを雌嶽と稱す、晩秋紅葉の名所として秋山一體紅を吐き冬は江山皆白粧をなして宛も白綾を纏へるが如し。

旅寢して誰か見るらん玉くしげ二つが岳の雲のあけぼの　資之

伊香保神社

今を去ること千八十餘年前天長元年四月の創建なり祭神は「大巳貴命」にして後世「少彦名命」を合祀す古は正一位伊香保大明神と稱す、市街の南方の最高地にある

を以て眺望絶佳にして背後には上ノ山を負ひ前面には小野、子持の二山を隔てゝ日光山を遠望し赤城、三國嶺の連山を望み心氣自ら快然たり。

明治二十二年七月常宮内親王(竹田宮妃)殿下避暑の砌り社前に松樹二株を植ゑ給ふ紀念の爲め境内に碑を建立す表面に曰く

皇女濃希不御手植能若松示

千代左加盈末須色楚見衣介　留基祥

裏面には「千代の緑」「群馬縣知事從四位勲三等佐藤與三撰文」「元老院議官從四位勲三等金井之恭書」の文を刻せり。

離れ山

俗に櫻野と云ふ澁川へ下り道にして行程は一里程なり櫻樹林をなし春季爛熳の候には白雲霞くが如し。

木曾神社

(一名箱田明神)祭神は「須佐之男尊」「彦火々出見命」「豐玉姫尊」「宇氣智神の四座を祀る。元暦元年頃木曾義仲の臣今井某高梨某等木曾家鎮守の神體と稱して此地に來り祠を建て神體の何物なるやを言はず只だ「箱だ〳〵」と言ふ人呼んで箱田明神と名稱せり、境内樹木鬱蒼幽邃にして「湧玉泉」と稱する噴泉あり其水透明にして水晶の如し。

御陸松

境内に多喜子内親王殿下の御手植の檜樹數株あり

うゑし木も神のちぎりや深からん木曾の山路の苗木なりせば　源　素彦

明治十二年皇太后陛下此地に行啓ありし際此の松樹の蔭に御休憩あそばされ給ひしが故に此の名あり、傍に建碑あり萬里小路博房卿の和歌を刻す裏面には時の縣令楫取素彦氏の選文を刻せり。

芝中のまつのやどりに千世かけて殘るはさみのみかげなりけり　皇太后宮大夫　萬小路博房

芝中の御かげの松やちよかけて君がみゆきに逢むとすらむ　三條實美

かぎりなくさかえ行らむ松かげを思へば君のみかげなりけり　高崎正風

水澤觀世音

本尊は「千手觀音菩薩」にして坂東三十三番札所の第十六番なり人皇第三十四代推古天皇の御宇の建立なり、高野邊左大將家成卿の二女伊香姫の守本尊なり。

藥師堂

本尊は「藥師瑠璃光如來」なり朝夕如來を信仰せば湯治の効能最も著しとて參詣する者多し。又藥師湯と稱するありて此地に湯治する者は一度は入浴せざれば効驗なしとて之れ又詣づる者多し。明治十五年の夏大隈伯の母堂祈願するありて藕絲を以て織り出したる安聖觀世音の尊影を當堂へ寄附せられたり。

船尾瀑

水澤觀音より約十數町なり又の名を「不入の瀑」と稱す船尾山の懸崖に落つ上段なるを雄瀧といひ墜落實に十七丈一尺なり、下段なるを雌瀧といひ三丈二尺にして瀑布中最も壯觀なるものにして一覽のあたへは確にあり。

其他地藏河原、行人松、中子稻荷、七里瀧、辨天瀧、黃金瀧、水澤寺、相馬嶽蠟燭岩、ガラメキ溫泉等あり。

歸路

歸路は前橋まで四里の間草津馬車株式會社の車臺を總赤塗にしたる馬車にて前橋に至る、澁川より（伊香保より二里）の馬車發着時間は午前九時、同十一時、正午、午後二時、同三時三十分との五回とす。

前橋にて一日の遊覽をなすもよろしからん此地は東照宮、八幡宮、双兒山公園、天野藤花等ありて「生井鑛泉」へは十町、「四萬溫泉」へは十三里、「澤渡溫泉」は十一里、「川中溫泉」へは十二里あり又赤城妙義榛名の上毛三名山へは此地より登山するもよろし、其他赤城神社、石垣沼、瀧澤不動、敦盛の墓、熊谷墓等ありて每年舊歷四月二十日には龍女祭なる者ありて盛大を極む、此地旅館兼料理店等は鐵線亭、油屋、白井屋、住吉屋、松阪屋、東鄕館、岩附館、求金館等あり。

前橋よりは兩毛線へ乘し駒形、伊勢崎、大間々、桐生、小俣、等の各停車場を經て足利停車場に着し小野篁創建たる足利學校及び有名なる古刹なる「大日如來」を安置せる「鑁阿寺」を遊覽し同地より東武線東京「淺草」驛行に乘車し「福居」、「中野」の停車場を經て「館林」茂林寺の有名なる分福茶釜を見て「川俣」、「羽生」、「加須」、

「鷲宮」、「久喜」、「和戸」、「杉戸」、「粕壁」、「武里」、「越ヶ谷」、「蒲生」、「草加」、「竹塚」、「西新井」、「北千住」、「鐘ヶ淵」、「曳舟」、の各停車場を經て「淺草」停車場に着す、或は中仙道線にて、もときし路をとりて上野停車場に着するもよしとす。

伊香保。費用及支出概算

汽車賃

上野停車場より前橋停車場まで（片道）

三等賃金一圓十錢　二等賃金一圓八十二錢　一等賃金二圓九十錢

▲馬車賃

前橋より澁川まで　（赤馬車）

往復賃金三十錢　片道賃金十六錢

澁川より伊香保までは伊香保電氣軌道株式會社にて布設中なれば本年盛夏の候までには全線開通す

○汽車賃共用往復券を發賣するときは前橋より澁川までの馬車賃若くは人車賃を合算したる通用十四日間の往復券の賃金

一等金六圓六錢　二等金四圓十四錢　三等金三圓十一錢

○宿泊料

○此地の旅宿には普通宿泊と室貸との二種あり。長期滯在客は多く室貸を望む此の方自炊的にして一室若くは數室及器具其他必要の物品を供用し毎食女中をして庖厨の用便を伺はしむるものにて浴客は各々我が好む所の物を女中に命じ買求めさせ賓たきをなさしむるものにて恰も我家に起臥すると同樣にて大に費途を省略する事を得可く經濟上の節約と靜養とを旨とする便法なり。

上毛伊香保温泉某旅館二軒の宿泊料等は左の如し其他數軒の旅館料金も略ぼ同じ。

○宿泊料

上等金一圓五十錢以上金二圓迄　中等金八十錢以上金一圓五十錢迄　下等金六十錢以上金八十錢迄

○壷食料　宿泊料の半額

○貸室料（一週間）一等金五圓以上　二等金三圓以上金五圓位まで　三等金一圓以上金三圓位まで

○夜具料（一夜一組）

上等金二十五錢以上　中等金十五錢以上金二十五錢まで　下等金八錢以上金十五錢まで

○宿泊料　上等金一圓　中等金九十錢　下等金七十錢

○壷食料　上等金五十錢　中等金四十五錢　下等金三十五錢

○貸室料　上等金十圓以上　中等金七圓以下　下等金一圓五十錢以上金二圓まで　一週間

順路

草津

時間湯＝熱の湯＝瀧の湯＝鷲の湯＝地藏湯＝御座の湯＝凪の湯＝目の湯＝四萬溫泉＝澤渡溫泉＝川原溫泉

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前五時半

○午前六時五十分（小山前橋行）にて上野停車場を發し「日暮里」「田端」「王子」「赤羽」「蕨」「浦和」「大宮」「上尾」「桶川」「鴻巣」「吹上」「熊谷」「深谷」「本庄」「神保原」「新町」「倉賀野」等の各停車場を經て同拾時三分「高崎」停車場に着す同十二分高崎を發し同拾時三十分「前橋」停車場に着す、（次の列車は前八時五分發にて同十一時二十二分高崎に着す）、六九哩二　三時間四十分

東京及其他の方面より草津溫泉に至る順路は凡そ四あり今茲に大略を擧げん

第一　高崎或は前橋より鐵道馬車にて澁川に着し此處より草津馬車會社（一名赤馬車）又は人力車、馬、駕籠等の便にて「中の條」（五里）より箱島原町（二十町）川原畑（四里十六丁）長野原（二里）大津前（二里）等を經て草津（一里）に着す（澁川より約十五里）

第二　高崎より澁川に着し「中の條」（五里）より澤渡溫泉まで（三里）小雨（四里）等を經て草津（二里）に着す（澁川より約十四里）

澁川より赤馬車發時間は午前九時、十一時、正午、午後二時、三時三十分の五回とす

第三　高崎にて信越線に乘換へ輕井澤にて下車して「沓掛」溫泉（三十町）應桑（五里）羽根尾（二里）を經て「大津」「前口」（各一里）にて草津に着す（輕井澤より約十里）（目下輕井澤草津間自働車の便あり）

第四　高崎より信越線に乘換へ豐野にて下車して「中野」溫泉（二里）より信州澁溫泉（二里）を經て草津（七里）に着す（豐野より約十一里）

草津温泉

草津温泉

上野國吾妻郡の西部にありて西方には白根の高峰北方には澁嶺を越えて信州下高井郡澁温泉に通し其他澤渡温泉、四萬温泉、川原温泉等に通す、草津町は山間にありて東南は眼界遠く開けて岩野諸國山嶺起伏の狀を一眸に收め眺望頗る爽快なり海面より高きこと凡そ四千五百尺土地硫黄山に屬するを以て隨處草竅あり。

草津縁記に曰く右大將頼朝公建久四年八月三日信州御遊獵の時白根明神の鳥居の前まで狩入らせ給ふに硫黄臭氣して煙立つ依て其他の住人御殿助に仰て叢を刈らせ地を掘らせ見給ふに自然とよき温泉湧出す之れ病を治すべしとて足利駒王丸が病疾を試み給ふに七日にして平癒す右大將感じて御身を浴し給ふに心地快然となり且無雙の温泉なりと宣ひ其地を御殿助に賜ふとあり。

分析表

日本鑛泉誌に曰く瀧の本湯無色透明にして硫化水素臭を有し酸味及び鐵氣あり其反應は強酸性にして「リートル」中含有する各成分及分量左の如し。

硫化水素	〇、〇〇四一	硫酸鐵	〇、三九四六
硫酸	〇、三五六四	鹽酸	〇、八七四二
硫酸礬土	一、六二七〇	等溫度百十四八度、	

温泉

温泉を列記せば熱の湯(百四十八度)鶯の湯(百四十度)地藏湯(百四十度)御生湯(百四十七度)凪の湯(百十三度)目の湯(百二十七度)脚氣の湯(百四十三度)金比羅湯(百二十一度)綿の湯、松の湯、富の湯、贄川湯、琴平湯、王の湯、奥の湯、關の湯、白壽湯、籬湯、瑠璃の湯、白旗湯、新御坐湯、等にして右の外浴舘には内湯十數槽を供す。

効能

粘液、流出病、痔疾、婦人消渴病、疝氣、寸白、僂麻質斯、痛風、淋病、(以上痼疾)梅毒よこね、下疳、ほねからみ等梅毒那佝僂病、禿瘡病、胎毒、頭瘡、等先天的遺毒及血液腐敗等に効能あり。

入浴心得

度數は一日に三回以上五回を以て適度とす時間は一回三分乃至五分とす、入浴後は皮膚を能く清洗すべく乾かざる内に衣服を着つくべからず

空腹の時滿腹の時及ひ發熱の際は入浴すべからず
到着の日は成る可く一日一回二回になすべし

旅館

（旅館）「一井館」「日新館」「望雲館」「松盛館」「桐山」「山本館」等あり、

名勝舊蹟

入浴者は野歩行、遊山社殿等に參詣し、清淨なる空氣を呼吸すればこそ溫泉の効能を助くるなれ今茲に著名なるものの大略を記すべし。

琴平祠畔、圓山公園、は市内にあり、西の河原、高山植物園、穴守稲荷、不動の湯瀧、動搖石、殺生河原、ものぬぎ沼、獅子岩、地獄谷等ありて猶ほ十數の著名なるものを擧ぐれば左の如し。

白根山

吾妻橋と高井郡との間にあり草津より約七里なり、海拔七千尺頂の眺めは雄大なり、白根神社は溫泉村の入口にあり祭神は從一位白根明神從三位小白根明神なり。

八坂神社

原町の町より草津に來る往路にて老樹鬱然として幽邃風光頗る明媚なり境内に茶亭數軒あれば晝食には適當地なり。

折の澤

河原湯より一里餘先きにして原町大字林村にありて懸泉五十丈巉岩幽溯の間より墜々として直下し珠散し雪飛び水流れて幾多の水車を以て廻轉して皆吾妻川に合す奇絶妙絶一壯觀なり。

横谷村

川中溫泉への途中右側にありて岩の高さ數十丈にして巖頭に小祠あり諏訪神社と稱す、山麓を通する道路左側は絶壁峭立岩上より俯瞰すれば其色深碧にして吾妻川に入る。

杉谷村

川中河原兩溫泉の間山頭の長松二三樹蒼穹に聳え樹下に一碑を建つ馬頭尊なり長野原町、地藏堂、數十間の岩石を穿ちて中に地藏尊を安置す眞に奇絶絶妙とは此處ならん。

道六神峠

川中原の間にありて俗稱八丁暗かりと云ひて夏期鬱々蒼々として咫尺を辨せざして晝なほ暗き事深夜の如し。

小藍池

白根山の北麓にあり池中に浮島ありて大なるは三間小なるは一間許ありて今日

は南へ行き明日は北に行き風のまに〳〵漂泛する樣甚だ珍奇なりと云ふべし。

辨天橋

河原より二十餘丁にして吾妻川中最も突兀として延亘せる巖を枕として架した る橋にして風光明媚なり。

横壁

河原より十八丁許りの左側にあり巍峨たる金鷄山腰奇巖突兀として雲表に屹立し前には吾妻川あり眞に壯絶たる奇景なり。

堂岩

河原長野原との中間左側にあり自然と岩を以て堂の形となす遠望すれば堂の如し依て名くと云ふ。

岩櫃山

吾妻氏の舊城の跡にして原町になり巨巖層々疊々として斷崖絶壁數十丈前には吾妻川の流れ岩石に激し磊々として流瀉す吾妻氏が永祿年間武田信玄の爲めに亡されて恨涙して憤死したりといふ俗に千疊敷と云ふ處は斷崖絶壁の中腹にあり。

吾妻川

絶景中の絶景にして眞に絶勝の仙境と云ふべきは吾妻川の風景也斷崖奇巖削立して斧壁の如く兩崖の峰は巍峨として雲表に聳え流水は突兀たる巖角に激して或は雪を散し珠を飛ばし霧となり雨となり其音は除々として恰も王箏を聞くが如し千丈の絶壁萬仞の懸崖水聲山谷に震うて遠く眺望すれば眞に一幅の活畫の如し。

此勝地は澁川の上流即ち北橋村と云ふ處なり、此處は榛名山眺望の屈指の所なり。利根川の奔流岩石に激し飛沫散亂して霧となり水聲鏘々として風景の幽邃なる彼方には榛名の峻嶺巍峩として雲表に聳へ此間の風景到底筆にも畫にも盡し難し殊に夕景尤も天然の圖畫なり。次に前橋高崎の沿道たる澤渡、四萬、川原等の溫泉の大略を擧ぐべし。

澤渡溫泉

高崎又は前橋より鐵道馬車にて澁川に着し同所より赤馬車人力車の便にて約九里にて四萬溫泉に着す。途中一泊を望むときは澁川より五里の中の條が最便利なり。

四萬溫泉の途中澁川より中の條を經て約二里にて澤渡溫泉に着す。

此地は三方山を還らし澤渡溫泉近くは四萬川に接し夏季最も清涼なり源泉は山

間岩石の間より湧出し、總て四ヶ所あり泉質は鹽類泉にして無臭無味にして專ら病後の衰弱を治す。

四萬温泉

四万温泉

群馬縣吾妻郡澤田村字四萬村にあり、「中の條」の北方四里にして四萬村にあり、地は岸巒起伏の間に位し泉質は鹽類泉にして僅かに鹹味あり皮膚病傴麻質斯等に特効ありとて其名高し。

療養時間四月より十月までを普通温泉の時期とすれども此温泉は四季を通してよし且つ泉泉の温度と効果に差異なく入浴の日時は二三週を適當とす、其北十五町の處に「日向見」温泉あり前に水晶山を望み近くは大泉小泉の飛瀑を擁し景色幽邃なるを以て温泉より散策を試みる者多し。

旅館

（旅館）「賽陵館」田村茂三郎、關喜平等あり兩館とも客室數十室を備へ規模宏大なり。

入浴時間

身體强弱にもあれども殊に老幼者は二回位なるべし普通の者は三回位を適度とす、入浴には殊に朝夕を宜しとす。

川原温泉

川原湯

上州吾妻郡の西北金鷄山の半腹にあり、海面より拔出する二千二百尺、山を負ひ川に臨み幽邃にして新鮮の空氣に富む。春は溪間の櫻、梔姸を爭ひ、夏は不動瀧、凉氣肌に透し、秋は金鷄山の月、心を爽快ならしめ、冬は聖天祠の雪皚々として好し。

泉源は大湯、瀧の湯、目の湯、百々湯、等にして硫黄泉に屬し胃病、傴麻質斯、子宮等に効あり、尙温泉は建久三年五月初めて發見せられ爾來漸く世に著れ明治十八年泉質の試驗を受け今日に至れるなり。

旅館

（旅館）萩原愼太郎（敬業館）竹屋宗七郎、山木館樋田、山本屋又平、柏屋道造等あり、就中萩原は客室浴室共に壯大なり。

近傍の名勝は不動の滝、久森隧道、湯原の桃、大澤滝等ありて澁川へ十里、伊香保へ九里、四萬へ十里、澤渡へ七里、草津へ五里、中の條へ五里等なり。

草津。費用及支出概算

▲汽車賃

上野驛より（前橋まで（片道）三等貨金一圓十錢、二等貨金一圓七十二錢、一等貨金二圓九十錢、高崎まで（片道）三等貨金一圓一錢、二等貨金一圓六十錢、一等貨金二圓七十錢、

▲馬車賃

前橋高崎より澁川まで　往復貨金三十一錢、片道貨金十六錢、一里（一區）金十錢
澁川より中の條まで　金五十錢　中の條より川原畑まで　金五十錢
小原畑より長の原まで　金二十錢　長の原より草津まで　金二十錢
○澁川草津間　金一圓五十錢　但四月より十月まで多少の割增あり

336830

▲人力車賃

澁川より中の條まで　金七十錢　中の條より原町まで　金十錢
原町より川原まで　金七十錢　川原より長野原まで　金二十錢
長野原より草津まで　金五十錢　合計約十五里　金二圓三十錢
高崎より四萬温泉まで（片道）　金一圓三十二錢
澁川より箱島、原町、川原畑、長野原を經て草津まで約十四里（一里金十七錢以内の割）
輕井澤より沓掛、應桑、羽根尾を經て草津まで約十里、金二圓五十錢餘、駕籠金四圓餘、駄馬賃金一圓八十錢
豊野停車場より中野を經て澁温泉まで四里（馬車賃）三十五錢、澁温泉より草津まで七里駕籠賃金二圓五十錢
○宿泊料座敷夜具料其他米炭薪油等一切一週間の滞在費の大凡概算額は左の如し
一等金四五圓より金十圓　二等金二三圓より金七圓　三等金二圓位より金四圓

▲望雲館（黑岩忠四郎）

○宿泊料

二等金七十錢　一等金一圓　特等金二圓五十錢
一週間に於ける滞在費（夜具損料座敷料並に三食）

三等金三圓八十錢　二等金五圓　一等金七圓
（自炊の便）夜具料一週間金五十錢より金一圓五十錢まで、座敷料一週間金七十錢より金二圓五十錢

○貸室料（六、七、八、九、四ケ月間一週間分）
一等金七圓　二等金六圓　二等金五圓　四等金三圓五十錢　五等金三圓

○貸室料（三、四、五、十、四ケ月間一週間分）
一等金五圓五十錢　二等金四圓　三等金四圓　四等金二圓五十錢　五等金二圓

○貸室料（一、二、十一、十二、四ケ月間一週間分）
一等金四圓五十錢　二等金三圓五十錢　三等金三圓　四等金二圓　五等一圓

○入込貸室料（六、七、八、九、四ケ月間一週間分）
一等金二圓五十錢　二等金二圓　三等金一圓五十錢　四等金一圓　五等金七十錢

○貸室料（三、四、五、十、四ケ月間一週間分）
一等金二圓　二等金一圓六十錢　三等金一圓二十錢　四等金七十錢

○貸室料（一、二、十一、十二、四ケ月間一週間分）
一等金一圓七十錢　二等金一圓三十錢　三等金九十錢

○夜具料　絹布一組一週間金三圓より金四圓、木綿一組一週間金五十錢より金一圓五十錢

○右座敷料夜具料其他諸費を合算して一人一週間見積金六圓
一等金六圓より金八圓　二等金五圓より金六圓　三等金四圓
右見積とは云へ大抵其範圍にて止まる樣にして尤も米價等非常に暴騰の時は幾分か增額ば已を得ざる事なり。

又連中多數なるときは上、中、下等とも二割以上の減價有之事。

飯焚雇女の給料は浴客一名につき一日一錢づゝ但し抱へ切りは一日金二十錢內外

▲日新館「湯本柳三郎」

○宿泊料、座敷料、夜具料、食料、薪炭油等を併せて一週間の大略左の如し。
金四圓より金十圓まで　一泊は金八十錢位より

又浴客の隨意にて自炊をなし得べく費用も大に低減する事を得べし。
上等金一圓五十錢　中等金一圓　下等金六十五錢

○飲食料
上等金七十五錢　中等金五十錢　下等金三十五錢

何れも溫泉地にてあるなれども道中休憩所又は車夫馬丁等に金錢を與へ我家に客を誘引せしむるものあり。畢竟此等は營業の繁昌せざるを以て此惡手段を用ゆるものなれば初めて來浴せんとする者は其邊に注意あるべき事なり。

四萬。費用及支出概算

賽陵館(田村茂三郎)貸室料一覽表(鹽の湯、岩根の湯)

種類	別	自七月一日至九月三十日	自十月一日至翌六月三十日
貸室料	木賃	一日一室 金三十錢より金四十二錢まで	一日一室 金十五錢より金三十錢まで
	館入込座敷	金四錢より金六錢まで	金三錢より金五錢まで
	別館貸切	一日一室 金二十五錢より金八十錢まで	一日一室 金二十一錢より金七十錢まで
寢具損料		夜具一枚一夜 金四錢より金二十二錢まで	蒲團一枚一夜 金二錢より金十五錢まで
		四、五、六、三ヶ月	一日 大人金一錢五厘 小人金八厘

浴錢		七、八、九、三ヶ月	一日 大人金二錢 小人金一錢
		六歲以上十一歲以下は小人六歲未滿	
女中給料		一週間三人まで金十五錢	
宿泊料		客室寢具の撰定より一定し難きも下等一日一人金二十錢内外三四十錢乃至五六十錢共以上は七八十錢位右の外一泊者に限り金五十錢より一四五十錢以下	
人力車賃錢	中條へ	上り 六十二錢	澁川へ 上り 一四三十二錢
		下り 五十五錢	下り 一四二十錢
馬車賃錢	高等馬車	六十錢	一四三十錢
	普通馬車	五十六錢	一四二十錢
		同	同

川原。費用及支出概算

▲(敬業館)

○貸室料

(毎年十月一日より翌三月末日まで二割引)

(一週間の定價表)一等金二圓五十錢より二圓　二等金二圓より金一圓五十錢

三等金一圓五十錢より一圓　四等金一圓より七十錢　五等金七十錢より三十五錢

此外特別上等種々あり

夜具料、(一等甲)金十錢(乙)金八錢　二等金七錢　三等金五錢

宿泊料、四萬温泉と大差なし

磯部

鑛泉＝佐々木盛綱城址及墓＝大野九郎兵衛墓

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前七時

▲午前八時十分(直江津)行にて上野停車場を發し「日暮里」「田端」「王子」「赤羽」「蕨」「浦和」「大宮」「上尾」「桶川」「鴻巣」「吹上」「熊谷」「深谷」「本庄」「神保原」「新町」「倉賀野」の各停車場を經て午前十一時二十五分「高崎」停車場に着し同驛にて信越線に乘換へ同三十五分高崎停車場を發し「飯塚」「安中」の停車場を經て午後十二時十二分「磯部」停車場に着す(次の列車前十時四十五分發にて後二時五十二分着す)(七三哩九　四時間二分)

磯部温泉

上說國碓氷部磯部村大字西上磯部村字鹽の窪を鑛泉所在の地とす、湧出地は二

ヶ所ありて一つは何れの世なるや分明せず、一つは弘化四年信州一帶の地大地震ありし時俄然噴出したるものにして、其當時は高さ十有餘丈に噴出すること三日に及ぶと云ふ、爾來其勢は漸次減少せしが猶ほ今日に至るも市街の北側にあるものは沸騰を逞うせり、天保十二年の頃村民浴舍の設けをなさんと企圖せしが遂に成らず、明治十七年に至り中山道の鐵道布設となりしを以て追々隆盛となり浴舍を設くる者日に月に增し來りて遂に往古の稻田は一變して街巷となりて現今の繁榮を見るに至れり。

此地は元仙石因幡守元俊の領地にて高燥水利の便に乏しく唯僅かに雨水を以て耕耘をなすことを得るのみなりしを、仙石公之を憂ひ寛文年間官に請ひて溝渠を穿ち隣邑人見村を經て碓氷川を引きて灌漑に便せり、村民大に公の恩澤を歡呼し遺澤を萬世に傳へむとて延寶年間村民相謀りて稻葉大權現の尊號を奉り、嘉永五年廟を建て其功績を石に勒し仙石公遺績碑と稱す。

旅館

名勝舊蹟

此鑛泉は其色濁りて臭なく味鹹にして少しく鐵氣あり効能は喘息胃弱等によし

（旅館）　信泉亭（鑛泉場の入口なる左の横路あり）風來館（市街の衝當りにあり）三景樓（風來館の北隣りにあり）山城軒（市街の左側にあり）對岳樓（鑛泉場の西端にあり）

佐々木盛綱の城趾ありて鑛泉より東南數町にあり、建仁年中築く所にして高さ十有餘丈周圍七八町あり、墳墓は東へ十町なる曹洞派禪林たる松岸寺にあり臺石の文字微かに松岸寺古石塔正應六年四月日と刻みあり。

淺野内匠頭家臣にて忠臣藏に其名高き大野九郎兵衛（九太夫）の墓も同じく松岸寺にあり赤穗を退去せし後ち此地に來り寛延四年九月死すと云ふ。

妙義山へは約二里にして道路最平坦なり登山せんとする者は是非此地を過ぐるを便とす。

此地より伊香保溫泉へ（九里十町、四萬溫泉へ十六里十七町、草津溫泉へ十六

里三十二町、澤渡溫泉へ十四里、川原溫泉へ十里三十四町あり）

沿道の勝地を探りつゝ歸るもよし、安中驛にて里見城址、高崎驛にて同公園、勅政神社、倉賀野驛にて慈眼寺の櫻、神保原驛にて善台寺の櫻、本庄驛にて官幣中社、金鑽神社、深谷驛にて岡部六彌太舊跡、熊谷驛にて熊谷寺、吹上驛にて玉鋒山、ぼんく山、鴻巣驛にて渡邊綱館址、桶川驛にて蒲梅、上尾驛にて秋葉神社、大宮驛にて官幣大社、氷川神社、浦和驛にて與野公園、蕨驛にて八幡山公園、赤羽驛にて正光寺、靜勝寺、王子驛にて飛鳥山、王子公園等あれば沿道何れなりとも立寄るもよろしからん

磯部。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より磯部停車場まで（片道）

三等代金一圓二十錢　二等代金一圓八十七錢　一等代金三圓十五錢

▲鳳來館（大手高平）

○宿泊料

上等金一圓　中等金七十錢　下等金五十錢　特等金一圓五十錢以上

○畫食料

上等金四十錢　中等金三十錢　下等金二十五錢

鹿澤　炭酸泉＝田澤溫泉＝沓掛溫泉＝赤倉溫泉

集合地　上野停車場　　**集合時間**　午前五時半

順路

△午前六時十五分（新潟行にて）上野停車場を發し「上端」「赤羽」「浦和」「大宮」「熊谷」「新町」等の各停車場を經て午前八時四十五分「高崎」停車場に着し信越線に乘換へ午前九時同驛を發し「横川」「輕井澤」「御代田」「小諸」等の各停車場を經て午後十二時五十四分「田中」停車場に着す（一〇八哩　六時間三十九分）信越線「小諸」驛に着するときは四里强「田中」驛より四里强にして着し、「上田驛」よりは五里余、長村まで三里馬車人力車の便あり溫泉まで二里余乘馬なり。

鹿澤溫泉

鹿澤溫泉　上州吾妻郡上孀戀村大字田代村にあり海面より拔出すること四千六百四十餘尺なり空氣清淨にして極暑の候と雖も八十度を超えず、又夏時蚊を見ずして實に養痾の最適地なり。

泉質及び効能等は無色透明の炭酸泉にして溫泉度華氏百十六度なり、効能は肺病疝氣、疝癪、腦病、胃弱、脚氣、血の道小兒脾病等によし。

名勝舊蹟　地藏磧早蕨薮、平原菖蒲、山神廟杜鵑、湯尻川晩釣、御座池鹿藥師名月、棧敷山紅葉、湯圍山暮雪是れ鹿澤の八景と云ふ

分析表　鹿澤溫泉分析表

一遊離炭酸大量　一重炭酸石灰大量　一重炭酸麻倫湿酸亞大量
一重炭酸亞酸化鐵少量　一硫麻湿易亞少量　一硅的少量
一硫酸亞酸化滿俺痕跡　一硫酸礬土痕跡　一炭酸加留母痕跡
一炭酸篤留母少量　固形物總計量一、〇五五

旅館　（旅館）鹿鳴館、宮崎、楢原館、瀬田、增や「戸都」、紅葉館、小林、小增屋、土屋、末廣館、土屋宇二郎等あり

當溫泉地は物價の低廉なるが特徴なり、且つ自炊の便あり至極手輕に滯在することを得るなり。

歸路

歸路は鹿澤より長村まで二里余、乘馬にて上田驛まで三里、馬車人力車の便あり、上田より「田澤溫泉」「沓掛溫泉」へ立寄るもよろしからん。

田澤溫泉

田澤溫泉

信州小縣郡にありて上田停車場より三里余にして馬車及人車の便あり、泉質は硫黃泉にして特効神の如しと稱し居れり、(旅館)としては子持湯元「たまりや」あり。

沓掛溫泉

沓掛溫泉

信州小縣郡にありて上田停車場より三里余にして馬車人車の便あり、極暑八十度を超へず泉質は硫黃泉にして痳病等に効能あり小倉の湯(旅館)「おもとや」あり沓掛新治町には沓掛館「かどや」あり。

沓掛溫泉上田停車場より「篠の井」「長野」「吉田」「豐野」「柏原」の各停車場へ下車し越後中頸城郡の有名なる赤倉溫泉へ赴くもよしとす。

赤倉溫泉

赤倉溫泉

中頸城郡字一本木新田にありて田口停車場より西へ一里余にして達す此所は少しく邊鄙なれ共閑靜なる避暑地を求めんには必適すべく物價も亦廉なり、此地には妙高山あり山の麓に南地獄と呼ぶ所ありこれ則ち湯の源にして泉質は「炭酸泉性」なり又北地獄と稱する所には元湯二ヶ所あり硫黃性にして筧を架すると三十八餘町のながきに及びて最も湧出量多し効能は貧血、胃質、リウマチス、等によし。妙高山は高さ四里余にして妙香山とも稱す、山頂よりは信州黑姫山羽黑山信州戸隱山飯縄山朝日山等一眸の中にありて快濶たり、しかも密樹蔚蒼靜閑幽雅にして

眞に塵外の清趣あり北地獄より東に血池あり池水赤し依て其名を生ず。

赤倉は元關山天台寶藏院の領なりしが文化の年十一代の領主榊原政令勸儉にして些を寶藏院より購入し起工二年を超へ初めて人の來つて浴するに便とせり。

關山溫泉

關山溫泉は赤倉溫泉場より三四里にして馬の便あり又田口驛より汽車に乘ずれば僅かに四哩にて關山に着す。「つばめ」溫泉へも僅かにして着す。

旅館

（旅館）香嶽樓を最とす右側にあり。香雲館は左側にあり其他松葉館、高田屋、村越屋等湯戸十數あり、右側の旅館に宿すれば信越の廣原を眺望し遠に佐渡の二島を煙波中に認め心氣爽快たり、左側の旅館に宿らば綠樹枝を交へ水鮮かに風色の幽邃なる自ら塵垢を洗ふが如し。

鹿澤。費用及支出概算

▲汽車賃

○上野停車場より田中停車場まで（片道）

三等貸金一圓七十八錢　二等貸金二圓八十三錢　一等貸金四圓七十八錢

○上野停車場より小諸停車場まで（片道）

三等貸金一圓六十七錢　二等貸金二圓五十八錢　一等貸金四圓三十三錢

○上野停車場より上田停車場まで（片道）

三等貸金一圓八十六錢　二等貸金二圓九十五錢　一等貸金四圓九十八錢

○上野停車場より田口停車場まで（片道）

三等貸金二圓四十二錢　二等貸金三圓六十二錢　一等貸金六圓二十一錢

○田中停車場より上田停車場まで（片道）

三等貸金九錢　二等貸金十五錢　一等貸金二十五錢

○上田停車場より田口停車場まで（片道）

三等貸金五十九錢　二等貸金九十錢　一等貸金一圓五十錢

▲乘馬賃

信越線田中驛より鹿澤まで（片道）　金一圓

▲鹿澤「增屋」

○宿泊料　上等金一圓、中等金七十一錢、下等金五十八錢（各三食共）

○貸切浴室　金七十五錢、共同浴室金一錢五厘

▲赤倉「香嶽樓」

上等一圓九十錢、中等金一圓三十錢、下等金一圓以下（各三食共）　其他自炊の便あり

澁溫泉

大湯＝安代溫泉＝上林溫泉＝中野溫泉＝湯田中溫泉

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前五時半

△午前六時十五分に上野停車場を發し「赤羽」「浦和」「大宮」「熊谷」「深谷」「新町」等の各停車場を經て八時四十五分「高崎」停車場に着し同九時信越線へ乘換へ高崎を發し「磯部」「横川」「輕井澤」「小諸」「上田」「篠の井」「長野」「吉田」等の各停車場を經て午後二時四十一分豐野停車場に着す（一四一哩五、八時間二十六分）

信州下高井郡にありて豐野停車場より四里半道路平坦にして馬車人力車の便あり當溫泉は海面より高さこと千六百四十餘尺なり、神龜年間僧行基此地に來り鑛泉あるを發見し草庵を營み初めて痊痾を以てし自ら藥師の佛像を刻み泉側に安置すといふ後嘉元二年溫泉寺開山虎關師練國師の經營により浴場とす。

當溫泉は上州、信州兩國の交通衢路に當り無量の靈泉を噴出し諸種の疾患に効あり又氣候溫和冬夏なきが如しといふ。

分析表

溫泉は大湯（當地元標）笹の湯（西五十八間）神明瀧湯、（東十二間）目洗瀧湯、（東五十六間）寺の湯（東三丁半）上葛の湯（南四丁）地獄谷の湯（二十三丁）湯澤の湯（二里十丁）初湯（西三十四間）綿の湯（西一丁三十二間）七操湯（東三十八間）千代の湯（西五十二間（不動の湯（東三丁半）下葛の湯（南三丁）館の湯（二里六丁）等あり。

効能

泉質は白濁にして少しく澁味あり反應は殆ど中性にし比重一、〇〇二三に居る本泉一「リートル」中の蒸氣發殘渣の全量は一、二六三「グラム」なり。

各種慢性婁痳質斯、慢性痛風、婦人生殖器病等にして、入浴の期は四月より九月に至るの六ヶ月間を最良とす、一日一回を適度とす、時間は午前八時より九時午後は五時より六時までの間を最良とす。

旅館

（旅館）採蘭館、やまもと、潛龍館、金具屋、櫻川館、菱屋寅藏等あり。

名勝舊蹟

神明山本宮に登る間は櫻花兩側にあり地獄谷鑛泉地上より噴騰すること二丈余これ天川の上流なり、傍に浴室あり其他温泉寺、和合橋、太古嶺、天川神社、澁山第一樓等あり。

此地には温泉として安代。湯田中あり何れも其名高し次ぎに安代を紹介せん。

安代温泉

順路

豐野停車場より四里十八町、人力車又は馬車の便によれば僅かに三時間にして達す、下高井郡澁温泉へは四里にして達す。

安代温泉

信州下高井郡にありて鑛泉噴出するもの多し、主なるものは湯田中、安代、澁の三湯泉とす、安代温泉は其中間にして七町にして湯田中に達す、此地海面より高きこと二千尺なり、東には笠ヶ嶽横手岩管の翠巒を空に挿み西には御嶽、飯綱、里姫、妙高の群嶺を望み屏巒疊嶂美なることなること畫の如し。

効能

各種慢性婁麻質斯、痛風、痼氣、婦人生殖病に特効あり、入浴の期は四月より九月に至る六ヶ月間を最良とす。入浴時間は午前八時九時、午後五時六時の間を最良とす始めは短く後漸く長くすべし即ち初め十分時よりして追々延長して五十分或は一時間に至るべし。度數は一日一回又は二回を適度とす。

旅館

（旅館）　山口屋三郎次（開泉館）ますや與助（浩養館）きたや新治郎（安代館）藤澤屋貞之助（有信館）萬屋賢吉（映星館）宮崎屋せい（湯原館）山崎屋要吉（安養館）等あり。

名勝舊蹟

佛巖朝霞地獄谷の左岸にあり三十町なり。藥師櫻花、山櫻數十株あり。黑滝山吹琵琶垂釣、板澤水鷄、早川納涼、澗泉楓、大鹿明月、五葉秋草塔峰晴雨、温泉寺、二僧塚彌勒尊、和合橋、飯綱社等あり。

此地より程遠からぬ上林、中野、湯田中、の各温泉場を記しをかん。

上林溫泉

上林溫泉澁溫泉より、東へ約八丁也善光寺へ七里、豐野停車場へ四里也、土地高燥にして海拔二千五百尺余なり、氣候溫和にして猛夏といへ共八十度を超へず。溫泉は鹽類泉にして一般消化器病に適す旅館は塵表閣あり。

中野溫泉

長野縣中野町字湯町にあり、豐野停車場より二里にして道路平坦にして砥の如し、澁溫泉へ二里なり、溫泉は無色無臭の鹽類泉にして平穩村湯原より一里余木管を以て之を引く、効能は「リウマチス」痔病等に効あり旅館は中野館あり。

湯田中溫泉

平穩村字湯田中にありて中野より東一里半なり、前には星川の溪流を控へ東には笠嶽等の諸山重疊し遠くは「妙高」「里姫」の諸山を望む、泉質は硫黄泉にして皆地底より湧出す脚氣湯、鶴湯、綿湯、鷺湯、滝湯、等あり内脚氣の湯は東南隅にありて岩石の間より湧出す、効能は貧血性等に効あり、旅館は湯本五平治、見崎屋善右衛門、長島龜之助等の外數軒あり。

澁溫泉。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より豐野停車場まで（片道）
三等金二圓三十三錢　二等賃金三圓五十錢　一等賃金五圓九十錢
豐野より澁溫泉まで　人力車賃金六十五錢　馬車賃金三十五錢
豐野より安代溫泉まで　人力車賃金六十五錢　馬車賃金三十五錢

▲「澁溫泉」菱屋寅藏

○宿泊料

上等金二圓位　中等金一圓十五錢　下等金八十五錢（三食共）

自炊の便ありて席料等は左の如し
上等金二十五錢　中等金二十錢　下等金十五錢より金十錢

○夜具料
(一)金二十二錢　(二)金十六錢　(三)金十二錢　(四)金八錢五厘

▲「安代溫泉」山口屋

○宿泊料
上等金一圓　中等金七十錢　下等金五十錢

○座敷料
上等金五十錢　中等金四十錢　下等金二十五錢
自炊の便ありて湯女を雇ひ食品の調理室内の洒掃等を命じ若くば浴客自ら其勞をとるもよし
宿元にては座敷料、夜具料、湯女給料、薪炭油等すべて相當の代價を支拂ふなり、座敷料は澁溫泉と大差なし

▲「中野溫泉」中野屋

○宿泊料
上等金一圓　中等金七十錢　下等金五十錢

○晝食料
特別金五十錢　上等金三十錢　並等金二十五錢

鹽原

大綱溫泉＝福渡溫泉＝鹽釜溫泉＝門前溫泉＝古町溫泉＝畑下戸溫泉＝新湯溫泉＝鹽原の瀑＝鹽原奇岩怪石

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前八時

△午前九時十分(仙臺行)上野停車場を發し「日暮里」「田端」「赤羽」「蕨」「浦和」「大宮」「蓮田」「久喜」「栗橋」「古河」「間々田」「小山」「小金井」「石橋」「雀宮」「宇都宮」「岡本」「寶積寺」「氏家」「片岡」「矢板」「野崎」の各停車場を經て午後一時五十四分「西那須野」停車場に着す、(前五時四十五分發列車なれば前十時三十六分着す)(九二哩一、四時間四十四分)

△毎年七月上旬より九月中旬まで十月上旬より十一月上旬までの夏秋兩回毎土曜日曜祭日に限り通用期限十四日間の往復割引券を發賣す。

下野國鹽谷郡鹽原村にあり箒川の清流に沿うて風光明媚の地たり湯本鹽原、上

鹽原、中鹽原、下鹽原に分つ更に是れを分ちて新湯、湯本、古町、須巻、門前、畑下戸、鹽の湯、鹽釜、福渡戸、大綱の十ヶ所に分つ、晩春は躑躅、初秋は紅葉、冬季は雪景、夏季は避暑の好適地として著名にして實に我國に於ける無上の好遊園とも樂園とも稱せらるゝ地なり。

停車場より下車して西に向ひゆけば大道平坦にして砥の如し。地は茫々たる平野となりて行くと數町にして「三島」に至る此地僅かに三百餘戸の一小村落なれども故縣令三島通庸氏が創業の地にして、那須野の現況を呈せるは又氏の功績と云ふべし。

關谷は鹽原の溫泉場に到るの關門なり、此處より鹽原に至る里余の間は幽邃にして紅塵萬丈の俗界を離れ轉々仙境に徜徉するの感あらしむ。關谷の旅館梅屋の前を出づれば「入小橋」と名づくる一小橋ありてこれ奇景勝景の境界に上るの意なり。橋を渡れば峯あり那須岳の噴烟、那須野の沃野を隔てゝ風色の秀でたると行人をして顧眄に暇あらざらしむ、間寄橋を渡り「白羽坂」を下りて「連理の木」を見て山腰を廻り行けば巖あり奇松あり瀑布あり奇棧ありて就中瀑布は其數幾多あるや知る可らず、其主なるものは「回顧瀑」「仙髯瀑」「連珠瀑」「玲瓏」瀑等にして其中殊に名高きは「見返り瀑」にて此處には「回顧橋」を架せり略傍の巖頭に立ち深谷を眺下すれば或は煙の如く霧の如く或は碎けて亂沫を飛ばし或は霧となり雨となり潺々たる水鳴恰も琴瑟笙簫を弄するに似たり。

鹽原は夏のみの世にあらず秋の鹽原は決して見捨つべき處にあらず、元來此地は溫泉として名著しき處なれども其淸淨なる秋は又た愛すべく、錦繡の雅境此地に及ぶ處はなかるべし、「那須野」より「三島」「關谷」を過ぎて「大綱」に至れば姫小松七八本綠濃を呈し洞門の邊りに至れば遠山近峯共に錦を曝し「兒ヶ淵」に至れば其四邊の風光鬱々として去り難く眞に秋色の艶美なる感殊に深からしむ「天狗岩」の邊りに至れば高々たる眺めは又云ふべからず、其より鹽股川と箒川と落合ふ處

に立ち眺望すれば水に映ずる紅は眞に秋を告げたり楓樹園内高尾塚邊りには秋の錦繡を織りたり高尾五句あり「寒風にもくくもつくる紅葉かな」之れ終焉の句なりと云ふ其れより「鹽泉橋」「朝仙轉」「仙人岩」等の眺めは又筆以上にて勁松の綠は愈々濃かに紅黄、茜、褐の諸樹錯綜として對映し眞に造花の妙を極む其他鹿の股川の幽趣古潤本邊までの錦を着けたる楓樹盛裝したる峯巒清洌なる水流幽谷の景趣千色萬態讃むるに言なく畫かんに筆なく凡眼遂に心神を失ひ心陶然として醉へるが如くあるべし。

大綱温泉

鹽原の地は下野國鹽屋郡にして「湯本鹽原」「上鹽原」「中鹽原」「下鹽原」の四大部に別る是れを分ちて「新湯」「湯本」「古町」「門前」「畑下戸」「鹽の湯」「鹽釜」「福渡戸」大綱とに分つこと既にいへるが如し。

鹽原の入口にして關谷より一里十餘町なり客舍は一軒なり温泉は「河原湯」「石間の湯」の二浴槽をなし箒川の流れにありて効能は療毒、中風、痔疾、仙癩に奏効者と云ふ。

旅館

温泉宿は佐藤久作の一家あり

福渡戸温泉

福渡戸は大綱より二十町にして此地に湧出する温泉は箒川の彼岸にあり温泉の不動澤西に湧くは「不動の湯」にして河流に沿ひて下れば溪間にある湯瀑なり箒川の向に巖を負うてあるは「岩の湯」にして箒川の流れに沿ひ點在するは「冷の湯」「泡の湯」なり北端にあるは「藥研の湯」「裸の湯」と云ふ。

(岩の湯)は痢病、疝氣、痛風、脚氣、寸白(冷の湯)は「腦痛」「癪」「痔疾」「泡の湯」は「淋病」「疝氣」「中風」(裸の湯)は「血の道」「疝氣」「火傷」等に各効能あり。各湯中(裸の湯)は泉質清晶にして槽内三尺余りの石あり名つけて「子抱石」と云ふ婦人にして入浴中此石を抱けば姙孕の機能を助くと云ふ。

旅館

温泉宿は「和泉屋」(田代太平)、「叶屋」(磯タケ)、「吉野屋」(磯平吉)、「玉屋」(田代辨治)、「滿壽屋」(臼井吉右衛門)、「牧野屋」(田代近三)、「阪口屋」(田代金平)、「松

屋」(田代茂一)、「丸屋」(大塚倉吉)の九軒あり。

鹽釜温泉

「福渡戸」より七町にして箒川に浴ひたる温泉なり、此地に湧出する温泉は「鹽湧橋」の袂に「阪下の湯」「くの湯」あり又此地には「あつの湯」ありて常に沸騰して浴するを得ず。

門前温泉

温泉宿は「小梅屋」(君島いく)一軒なり。

鹽釜温泉より六町なり、此地に湧出する温泉は「自樂坊の湯」「下の湯」「三島の湯」あり、「自樂坊の湯」は「リウマチス」「胃痛」「肺病」「脚氣」等によし「下の湯」は「産前産後」「血の道」「瘡毒」等に効あり。

旅館

温泉宿は「山口屋」(櫻井)、「松本屋」(渡邊)、「福田や」(手塚)、「青木や」(君島)、「坂本や」(手塚)、「菊地や」(菊地)、「宮田や」(深尾)の七軒あり。

古町温泉

「門前」より一橋を隔つるのみにして箒川の東にあり、此地に湧出する温泉は「不動の湯」「中の湯」「御所の湯」等あり「不動の湯」は「眼病」「血の道」「中の湯」は「胃痛」「子宮病」「朝日湯」は腦貧血、胃痛中氣等「御所の湯」は貧血、瘡毒等によし。

旅館

温泉宿は「加治屋」(君島正作)、「萬や」(君島寅治)、「那須や」(渡邊)、「米や」(細井)、「常陸や」(君島勝馬)、「上會津や」(君島嶺吉)、「中會津や」(君島寅吉)、「楓川樓」(子安才吉)、「茗荷や」(君島捨吉)の九軒あり。

鹽の湯温泉

鹽釜より鹽湧橋の長さ三十余間を渡りて十餘町にして「親抱松」「仙人ヶ岩」等を經て達す、座股川の東岸により湧出するを「中の湯」「岩の湯」西岸より湧出する「冷の湯」といふ、冷の湯及び「中の湯」は「中風」「血の道」「脚氣」等によく「岩の湯」は疝氣寸白、胃痛、肺病、痛風等によし。

旅館

温泉宿は「柏屋」(君島寅吉)「玉屋」(君島淺吉)「明賀屋」(君島五郎)の三軒なり。

畑下戸旅泉

鹽釜より西北へ四丁なり、此地の靈泉は箒川の北岸に「河原の湯」西岸に「鳩の湯」又た西窟より湯出するを「元の湯」「冷の湯」「狢の湯」等なり「元の湯」は疝氣、頭痛淋病、消渴、「鳩の湯」は瘡毒、斬傷等、「狢の湯」は中風、疝氣、寸白等に効あり。

旅館

温泉宿は「ぬりや」(君島久三郎)、「紙屋」(阪内仁三郎)、「大和や」(阪内半六)、「佐野や」(君島豊吉)の四軒なり。

畑下戸より西八丁なり鹽の湯より二十町なり、此の温泉は「滝の湯」と云ふ、頭痛、眩暈、痰咳、寸白等に効あり。

須発温泉旅館

温泉宿は「根本屋」(根本仙松)の一軒なり。

古町より西南二里にして硫黄質の温泉なり、硫黄山の麓に湧くを「上湯」「中湯」山腹に湧くを「寺湯」「狢湯」ありて脚氣、疝氣、寸白、淋病等に効あり。

新湯温泉旅館

温泉宿「泉屋」(君島ィマ)、「君島や」(君島きく)、「亀や」(渡邊チャウ)、「下藤屋」(渡邊チャウ)、「菊や」(十須賀重三郎)、「大黒や」(大塚金太)、「上藤屋」(渡邊伊之助)の七軒なり。

古湯本温泉

新湯から三十丁なり、此地の温泉は萬治年間の大地震に温泉の口多く塞かりて遂に今日の衰微を來したるものなり、霊泉は梶原の湯あり、昔時頼朝那須野に狩せるとき梶原泉時の入浴したりと云ふ。

鹽原の瀑

鹽原滝

鹽原の滝は其數幾多あるや知るべからず、東京にて所謂滝と稱するもの水の落下とするものを滝といはんには眞に幾千有余といふも誣言なかん、其中最も賞すべきは七十有余ありて就中壯快なる七瀑は「大綱」(龍化滝)「鹽之湯」(雷霆滝)(霹靂滝)(咆哮滝)(雄飛滝)「古町」(洗心滝)(鴻霓滝)にして、はじめて鹽原に來らんには滝の爲に卒倒せざるが仕合なる位なり今其位置の形狀を記さん。

大綱龍化滝

七丈の斷崖より落下し更に又一轉して五丈の滝となる又此地には「魚止滝」ありて滝壺深くして且水勢の激するを以て魚止ること能はず依て此名あり、其他「布の滝」「一番滝」「二番滝」「潜龍滝」「龍門滝」「虬髯滝」「抛雪滝」「風擧滝」「九回滝」「回顧滝」等あり。

鹽之湯

「雷霆瀧」これ鹽原第一の瀧なり高さ十五丈巾十二丈水巖に激して霧恰も雨の如し雄瀧と稱す、「霹靂瀧」は「雌瀧」と稱す、「咆哮瀧」は三十間の高さにして巾は十七間なり上は兩瀧の間三十間にして下は合して一となる此所五十間の大瀑となる、其他「雷霆瀧」は上流二十町にあり「雄飛瀧」は鹿股川の溪流の合する酢澤にありて落下數十丈なり。

古町洗心瀧

箒川の東岸より十町余りの山中にあり直下三丈水底の透るが如し、又た善知鳥川に至れば「瀉霓瀧」ありて水勢數町の遠きに聞ゆ、其他「七弦の瀧」「玉振瀧」「飛又瀧」「葆光瀧」等あり。

其他(鹽釜)には「光瀧」「矛瀧」「父瀧」(畑下戸)には「芳袖瀧」「散花瀧」(門前)には「常樂瀧」(古湯本)には「御瀧」「七瀧」等あり。

鹽原の奇巖怪石

天狗岩

大綱より箒川の流に浴ひて行けば福渡戸溫泉より北に向ひて路右の丘上に溫泉神社あり、歩を進むれば忽ち見る天を摩する天峭巖の屹立せる、此凄じき巖を天狗岩と云ふ、絶壁數十尺之を仰ぎ見れば愈々高く青松の疎々綠葉の密なる奇巖に一入の風致を添へ其美其怪なること造化の妙に驚かしむ。

野立石

天狗岩の下にありて小夜の河原と云ふ所にあり、往年「蒲生氏卿」東征のとき之の岩上に憩ひたりと云ふ、高さ三丈にして石の頂面平かにして十坪余りありて上に茶店ありて風景最も美なり眞に絶勝とは此の處ならん。

其他「帶石」「不動岩」「船岩」「野古立」「林木石」等あり。

古跡墳墓

源三窟

古町溫泉の西北にありて御殿山の麓にある茶店の傍に一大洞窟あり之れ源三窟と云ふ、入口は高さ一丈六尺巾二丈八尺なり昔源三位頼政平氏と戰ひ敗れて此の

高尾碑

洞窟にかくれたりと云ふ。

碑の面には高尾塚の三字を刻む、高三尺八寸方一尺一寸にして側面背面には山本北山の碑文あり。

其他鹽原家忠の城趾、城山、仙人岩、左勤、小太郎ヶ淵、普門ヶ淵、妙雲尼墓小山刑部の墓あり。

西那須より約三哩さきなる東那須には板室溫泉、黑磯には那須溫泉、黑田原には旭溫泉の白河には甲子溫泉等ありて歸路にも名勝舊蹟等尠からず。

鹽原。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より西那須野停車場まで(片道)

三等賃金一圓四十錢　二等賃金三圓十七錢　一等賃金三圓六十五錢

○割引往復券賃金　三等賃金一圓九十八錢　二等賃金三圓十五錢

▲馬車賃

西那須野停車場より鹽原まで

六人乘合馬車にて賃金一人分金四十八錢　人力車賃金七十八錢

○宿泊料

○各旅舍皆な同一の額に一定せり

特別(甲)金三圓、(甲)金二圓(乙)金一圓五十錢、(丙)金一圓、(丁)金八十錢

○賣食料

特別(甲)金一圓五十錢、(甲)金一圓、(乙)金八十錢、(丙)金五十錢、(丁)金三十錢

○席料

(甲)金五十錢、(乙)金三十錢、(丙)金三十錢、(丁)(入込一日一人)金十錢

湯錢一日一人金三錢　綿布夜具一組一夜金五十錢より金一圓

木綿夜具一組一夜金二十五錢、(甲)金二十錢(乙)金十五錢、(丙)蒲團一枚一夜、(甲)金八錢、(乙)金六錢(丙)金四錢、(丁)金二錢　寢卷一枚一日金五錢　浴衣一枚一日金二錢

順路

那須　湯本＝温泉神社＝殺生石＝川治温泉

集合地　上野亭車場　**集合時間**　午前五時

△午前五時四十五分(仙臺行)にて上野停車場を發し「日暮里」「田端」「王子」「赤羽」「蕨」「浦和」「大宮」「蓮田」「久喜」「栗橋」「古河」「間々田」「小山」「小金井」「石橋」「雀宮」「宇都宮」「寶積寺」「氏家」「片岡」「矢板」「野崎」「西那須野」「東那須野」等の各停車場を經て午前十時五十五分「黑磯」停車場に着す（次の列車は九時五分發にて後二時十五分着す)(九九哩二、五時間十分)

△七月上旬より九月中旬まで黑磯行通用十四日間往復券發賣することあり

黑磯停車場前小松屋支店にて晝食をなし、待つこと三十分程にて「那須」行馬車出つ、此馬車は例のガタ馬車なれは充分前後左右にがたくらるる故に其覺悟なかるべからず、此地方は雷雨非常に多き地なれば那須までの間には四五回の雨に逢ふ覺悟なかるべからず依て其支度にて乘車せらるべし、那須までは四里二十町にして馬車の外に人力車の便ありいつれにしても午後三時頃までには到着すべし。

此間徒歩の妙味を知らんと欲せば黑磯より北へ進んで那珂川の橋を渡り高久を左折して一里半にて松子に着す、是より十六町田代に至り、又二十町にして廣谷地に至る、此處より景色頗る爽快にて深林溪谷の奇勝を眺めつゝ行くこと二里にして湯本に着す。

那須温泉

當温泉は人皇三十四代舒明天皇の御宇狩野三郎行廣の發見にして今を距る千三百五十有餘年なり、湯本は那須温泉の主腦にして高雄肢、辯天、北、大丸、三斗小屋、板室、旭、茶臼滝の九湯にして那須岳の周曲に散在す故に九湯の名あり。

那須湯本より九湯其他の地への里程表を擧くれば左の如し。

高雄肢十二町、辨天三十町、旭一里、大丸一里二十町、茶臼瀧一里三町、北湯一里五丁、三斗小屋三里、板室三里半、黑磯四里九町、里田原四里、白河六里、鹽原九里、日光十八里なり、(各溫泉間)、辨天と北の湯間十八町、北の湯と大丸十五町、大丸と三斗小屋二里、三斗小屋板室間四里二十町、板室と黑磯との間五里四丁。

湯本は西南方は開豁にて眺望頗る爽快にて空氣清新土地高燥なり。極寒の際と雖も四十度前後にて極暑には八十度前後なり蚊、蚤等の襲來なく眞に別天地の觀あり。

ものゝふの矢なみつくろふこゝのへに霞たばしる那須の篠原　右大臣實朝

世の中に我はなにをかなすの原なすわざもなく年や經ぬべき　蒲生秀郷

那須溫泉は無色透明にして多く硫化水素を帶び强酸性鐵味を有す本泉は內服外浴共に宜し、皮膚病及ひ脚氣、子宮病、健麻質斯等に特効あり。

入湯心得

小松の湯　小松館內にありて無色透明にして硫化水素の臭氣を帶び酸性の反應を呈す、子宮粘液漏、慢性加答兒、貧血梅毒等に特効あり。

(一)　初めの日は三回夫れより順を追ひ七八回までを限りとす、入浴の際は先つ頭に檜杓にて五十杯以上湯をかぶり瀧湯へは下より掛るを宜しとす、(二)朝五時より夜十時までを宜しとす其入浴時間は身體の强弱により一定せざれども凡そ五分より二十分位を適度とす、但し空腹の時と食後一時間を經ざる時は決して入浴すべからず、(三)飲食物は可成滋養物あるものを選ぶべし、(四)每朝通常の茶碗にて半分又は一杯位溫泉を飲用するを宜しとす、(五)溫泉にあるときは橫着となり易ければ務めて市中又は山野を運動すべし。

旅館

「溫泉旅館」　小松館、河內屋、和泉屋、中藤屋、松川屋、橋本屋、松屋、常磐屋、松野屋、富岡屋、立花屋、清水屋、等あり。

名勝舊蹟

此地の名勝舊蹟は「殺生石」あり石は高五尺許り柵を繞らし人の近づくを禁ず、

又「溫泉神社」は湯本にありて祭神は「大巳貴命」、「少名彦命」なり、野州十一社の一なり、平家物語那須與市扇を射るの條に「溫泉大明神」と記せるは此祠なり。

那須與市が奉納したる鏑矢、源頼朝の此地に狩して獲たる大鹿の九勝角あり、

歸途「宇都宮」より日光線へ乘換、鹿沼文狹を經て今市停車場に着し同町川治溫泉へ立寄るもよし。

川治溫泉

川治溫泉

今市より人力車、馬、駕籠の便ありて北方六里半なり、下野國鹽谷郡藤原村にあり、溫泉は享保年間に發見せしものにて四季の入浴に適し、前に高原宿及び男鹿の溪流に臨み背後に仙嚴嶽あり右に木戸塲山、鬼怒の急流あり、左斜に雞頂峯、出土の瀧等ありて恰も畫中に座するが如し、今市より川治間に中岩、籠岩、御光石等の勝地あり。

藤原溫泉

當溫泉の効能は僂麻質斯、脚氣、胃腸病、等に特効ありと云ふ、溫泉宿は近江屋「高橋鬼子三」等あり。

歸路

川治溫泉に到る途中今市より一里半にあり、今市より人力車賃金三十五錢なり、溫泉宿は「幸屋星献」一軒にして近傍は民家僅かに數十戸に過ぎず、猶ほ附近には「山沼溫泉」瀧溫泉ありて何れも湯治塲として名あり。

停車場より僅かに三町にて報德二宮神社あり、庫裡の山椒の柱は周り三抱もありて見るべき也尊德翁の墓地へも三町也、又中岩橋の絶景へも約三里にして達す、文挾にも「小代」溫泉あり、落合村には觀世音あり、藤原藤房卿の墓地へも遠からず。

歸路は吾國山水の美なる日光に至り東照宮の偉觀を拜し、其れより沿道の名勝舊蹟を巡覽して歸るもよろし、今茲に大略を列記すれば左の如し。

日光線の分岐點「宇都宮」には二荒山神社野多の有名なる大なり粉何寺大谷觀音

蒲生君平墓及ひ德川二代將軍の時有名なる釣天井の址あり「雀宮」には藤原實方を

祀れる雀宮神社あり「石橋」には威德天滿宮、梁里櫻「小金井」には弓削道鏡の左遷せられたる藥師寺址、慈眼寺櫻、「小山」は兩毛水戸の分岐點にして有名なる小山城址、須賀神社又た鮎漁の思川、「古河」には賴政神社、熊澤蕃山墓及ひ桃林、「栗橋」には光了寺、不動岡不動尊、「久喜」には鷲宮神社、「蓮田」には白岡八幡宮、「大宮」には官幣大社、永川神社、見沼川螢、「浦和」には太田窪の鰻「蕨」には前川觀音、「赤羽」には正光寺、靜勝寺、川口善光寺、「王子」には王子公園王子權現等ありて「田端」「日暮里」兩驛附近にも名勝舊蹟等尠からず。

那須。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より黑磯停車場まで(片道)

三等貨金一圓四十九錢　二等貨金二四三十一錢　一等貨金三四八十八錢

○往復割引券貨金(通用十四日間)

三等貨金二四六錢　二等貨金三四十錢

今市停車場より上野停車場まで(片道)

三等貨金一四三十三錢　二等貨金二四七錢　一等貨金三四四十八錢

黑磯停車場より今市停車場まで(片道)

三等貨金六十九錢　二等貨金一四十一錢　一等貨金一四八十五錢

「今市より日光まで」は三等金五錢增　二等金七錢增　一等金十二錢增

▲馬車賃

黑磯より那須まで(乘合馬車にて一行六人乘)

(往復)貨金一四十錢　(片道)貨金六十錢　一

▲人力車賃

黑磯より那須まで(往復)貨金一四四十錢　(片道)貨金七十錢

今市より川治まで(片道)貨金一四五十錢

▲馬　賃

黑磯より那須まで(往復)貨金七十錢　(片道)貨金三十五錢

今市より川治まで(片道)貨金一四　荷物一駄金四十錢

○宿泊料

(小松館)及び(旅館一同)

上等金一圓　中等金七十錢　下等金三十五錢より金五十錢まで

○畫食料

一等金三十五錢　二等金二十五錢　三等金二十錢　四等金十五錢

○(自炊の分)

一等座料金十錢　二等座料金八錢　三等座料金十錢　特別座料金十五錢　湯錢金二錢

蒲團一枚(上)金六錢　(中)金四錢　(下)金三錢

小蒲團一枚(下)金二錢五厘　(中)金三錢　(上)金四錢

ゆかた一枚金二錢　座蒲團一枚金一錢　以上は一昼夜の價なり。

味噌六百匁金三十二錢　石油一夜金三錢　燈油一合金七錢　薪一束金三錢　湯下駄一足

金五錢　炭一箱金六錢　附木一把金五厘

▲川治溫泉　「近江屋」高橋鬼子三

○宿泊料　一等金一圓五十錢より下等金三十五錢まで

○畫食料　一等金五十錢より下等金十五錢まで

自炊の便ありて座敷料道具料一人一日金六錢より金十五錢まで

但し一室以上貸切は別に相談する事

蒲團損料一枚一日金二錢五厘より金十五錢まで

飯坂

滝の湯＝透達湯＝鮎湖湯＝湯野村溫泉＝穴原溫泉＝高湯溫泉＝微溫湯

溫泉＝土湯溫泉

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前五時

△午前五時四十五分(仙臺行)にて上野停車場を發し「日暮里」「田端」「赤羽」「浦和」「大宮」「蓮田」「久喜」「栗橋」「古河」「小山」「宇都宮」「寶積寺」「矢板」「西那須野」「黒磯」「黒田原」「白河」「須賀川」「郡山」「日和田」「二本松」「松川」等の各停車場を經て午後二時五十一分「福島」停車場に着す(次の列車は前九時十分發にて後五時五十六分着す)(一六八哩　九時間六分)(又は長岡驛、桑折驛何れに下車するも便利なり)

飯坂溫泉

飯坂温泉

岩城國信夫郡飯坂町にあり、福島驛より西北二里八町にして、長岡驛よりは二十四町なり、桑折驛よりは一里二十七町にして長岡驛よりは距離最短くして最も便りなり、何れも車馬の便あり。

此地は摺上川の右岸にある山村にて三方共に峯巒迭迎して、西南に吾妻山あり東方は沃野にて、遠くは南朝の忠臣北畠顯家の城址を以て界とし、又福島公園として其名高き信夫山をも望むべし。

此地は遠望頗る富みたる處にて四季の風景絶佳なり。

飯坂温泉の「共同湯」は總て八ヶ所にて其中市街あるは「滝の湯」「透達湯」「鯖湖湯」「波來湯」にて字「赤川」にあるは「赤川湯」「赤川端湯」「金滝湯」なり「天王寺」にあるは「天王寺湯」なり。

泉質

無色透明にて「アルカリー」性にして其効能は「滝の湯」「透達湯」は呼吸器病、消化病、皮膚病、婁麻質期に効あり、「鯖湖湯」は肺病、胃病、婁麻質期、婦人諸病に効あり、彼來、赤川、金湖、天王寺の各湯は火傷、腫物、黴毒等に効あり。

飯坂の主たる温泉は「鯖湖の湯」とす此湯は字湯澤の路側にありて浴槽は恰も大なる堀井戸の如く街面より凡一丈餘も深く、泉質は鹽類泉にして温度百二十五度なり、湯は岩面より湧出す、傳へ曰く往古日本武尊東征の時此の温泉に浴し病阿快愈せしかば是れより温泉場を設るに至れりと云ふも信僞は保し難し。

世とともになげかしき身は陸奥のはさはこの御湯といはせてし哉

透達湯

透達湯は鯖湖湯の後方にあり、泉質は鯖湖湯に同し温度百二十九度なり「彼來湯」は崖下橋上川岸にあり温度百三十二度なり「天王寺」湯は摺上川に沿ふること數町なり温度百二十四度なり。

透達湯と鯖湖湯との間に石碑あり之れ琉璃尊を安置し泉の佛と稱するものにて碑面に曰く

あかずして別れし人のすむ里はさばこのみゆる山のあなたり

鯖湖碑陰記

土人以古鯖湖即爲此地聞之。老公。書賜古歌刻碑樹之臣典謹識

其陰詔後世使之知之　文化十三年丙子　白河廣瀨識

旅館

（旅館）（瀧の町）花水館、角屋、桝屋、寶里井、の四軒には特に内湯あり

高松屋、新桝屋、和泉屋

（十綱町）港屋、花屋、茂庭屋、都田屋

（湯澤）桝谷、堀江屋、網屋、上遠屋、油屋、中村屋、諏訪屋、和久屋

中屋

（赤川端）信濃屋、佐藤屋、赤川屋

（字天王寺）大坂屋、　（古戸）和泉屋

飯坂溫泉は四季の遊覽に富み、春は近郊の梅花馥郁として櫻花は爛熳たり、夏は摺上川の清流前を流れ涼風腋下に吹き三伏の暑熱を知らざらしむ、殊に十綱橋の納涼最可なり、秋は周圍の山々翠樹蒼々として殊に愛宕山の月は賞すべく、茂庭の虫聲を聞くべし、冬は摺上川の雪景亦賞すべし。

其他此地附近は景色に富みたる處なれば今左に大略を擧ぐべし。

吾妻山　會津米澤の境に跨る活火山山なり海面より抽くこと五千五百餘尺なり噴火口は其南麓字硫黄谷にありて絶えず泥灰を降すあり。

十綱橋　年を經て茂るなげきをこりもせでなど深からん物思ひの山　顯昭

飯坂町摺上川に架する橋にして柱脚を用ひず銅鋼を以て繋ぐ人呼んで釣橋と云ふ飯坂に來る浴客は皆涼を此橋に納るものなり。

文字摺石　陸奥の十綱の橋にくる繩はたえずも人に云ひめたすかな

福島驛より一里餘にして岡山村大字山字觀音寺境内にあり、有名なる古蹟にして長一丈一尺六寸巾六尺九寸七分ありと云ふ、此石元と土中にありしを以て堀出して建立したるなり。

陸奥の信夫文字摺たれゆゑに亂れそめにし我ならなくに　源融

思へどもいはで信夫のすり衣こゝろの内にみたれぬる哉　頼政

陸奥の信夫文字摺しのひつゝ色には出したれもそする　寂然法師

信夫山公園

福島町より十七八町にして達す信夫山これなり、老松古杉欝々として四季風光明媚なり、山上に祠あり里沼神社と云ふ祭神は欽明天皇の后石姫皇后を祭る信夫郡五社の一なり。

信夫山忍びてかよふ道もかな人の心の奥も見るべく　業平

瑠璃光山送王寺

佐場野にあり眞言宗にて、此寺には源義經の太刀及び辨慶の笈等あり、又佐藤經信忠信兄弟が幼少の頃の玩弄物ありて共に當寺の什物となれり、此城趾は市街にありて西へ數町なり是れ佐藤繼信湯莊司か居城たり。

笠も刀も五月に飾る紙小旗　はせを

飯坂より僅かにて湯野村溫泉あり、潺湲たる摺上川を隔てゝ伊達郡にありて互に呼べば答ふるを得べし、湯場は橋本湯、切湯、狐湯の三ヶ所あり。

穴原溫泉

摺下川の右岸にありて十數町なり、(旅館)は吉川屋外一軒あり、風光の幽邃なる飯坂と大に趣きを異にせり。

高島溫泉

庭坂村にあり海面を拔くこと二千三百尺にして、熱湯、疝氣湯、瀧湯、王子湯、の四湯あり、泉質は酸性反應を呈し硫化水素の臭味を放つ(旅館)は信夫屋吾妻屋、安達屋等の外四五軒あり。

微溫湯溫泉

水保村大字梅木にあり、熱湯、微湯の二あり泉質は酸性反應を呈し硫化水素等の惡臭を放つ効能は眼病痳病等なり。

土湯溫泉

土湯村にあり海面より拔くこと二千二百尺なり、中湯下湯の二湯あり、効能は衰弱病貧血病等によし(旅館)は非升屋、和泉屋、中村屋、津田屋、信夫屋等あり。

長岡驛の次驛白石より一里餘にして「鎌先」溫泉あり「小泉」溫泉あり五里餘の所に「遠刈田」溫泉、青根溫泉ありて共に人車を通す土地閑靜にして勝景に富めり。

歸路は奥州長岡驛まで二十四丁なれは此處よりするも桑折驛（一里二十七町）よりするも又往路にとりし福島驛よりするも何れにても宜し、此間は道路平垣砥の如く車馬の往來絶えず徒歩するも面白し。

飯坂。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より福島停場車まで（片道）

三等金二圓十九錢　二等金三圓四十四錢　一等金五圓八十錢

○宿泊料　「飯坂」花水館

特別一等金二圓五十錢、一等金二圓、二等金一圓五十錢、三等金一圓、四等金七十五錢、五等金五十錢

○菜食料特別　一等金一圓、二等金八十錢、三等金七十錢、四等金五十錢、五等金四十錢

○座敷料

貸切一坪に付金二十錢、特別上等金二十錢、一等金十五錢、二等金十二錢

湯　圓　（上）金五錢五厘　（中）金四錢五厘　（下）金三錢五厘

敷蒲團（上）金三錢五厘　（中）金二錢五厘

寢　衣　金三錢、點燈一夜金三錢より金五錢、湯錢金二錢、　味噌一人前金一錢五厘

▲飯坂瀧の湯（桝屋）

○宿泊料　（下等は取扱はず）

上等金一圓　中等金七十五錢

○菜食料

上等金五十錢　中等金三十五錢

○貸室料

上等金二十錢　中等金十五錢

○宿泊料「金瀧館」佐藤康平

一等金一圓五十錢　二等金一圓　三等金七十五錢

○菜食料

一等金七十錢　二等金五十錢　三等金四十錢

○貸室料（一坪）

一等金二十錢　二等金十五錢　三等金十二錢

順路

東山

瀧の湯＝涌の湯＝管の湯＝穴湯＝目洗湯＝網湯＝檀の湯＝猿湯＝狐湯＝狢湯＝飯盛山＝羽里山＝鶴ヶ城

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前五時

△午前五時四十五分（仙臺行）にて上野停車場を發し「赤羽」浦和「大宮」「久喜」「古河」「小山」「小金井」「石橋」「宇都宮」「賓積寺」「氏家」「西那須野」「黑磯」「白河」「矢吹」「須賀川」の各停車場を經て午後一時十二分「郡山」停車場に着し同驛にて若松線に乘換へ「堀の內」「子ヶ島」「熱海」「中山宿」「山潟」「關都」「川桁」「猪苗代」「翁島」「大寺」「廣田」等の各停車場を經て後五時十四分「若松」停車場に着す、（一七八哩一、十一時間二十九分）

△毎年四月中旬より五月中旬まで或は其他の期に於て割引券を發賣することあり。

若松市

岩城國北會津にありて、東西三十二町南北二十町あり、古來より有名なる地にして東南は烏帽子山、脊炙山等の山脈を受け西北は平野に臨みて日橋川、大川の流を帶び最も形勝の地なり、市街よりは瀧澤峠及び飯盛山を望む、飯盛山は白虎隊の戰死を以て最名あり（東山までは人車三十分にて着す）。

東山溫泉

若松停車場より約三十町なり、東北の一仙鄕にして一村僅かに八十餘戶にして農を營むもの三十有餘戶、他皆旅館、料理店のみなり、古の俚言に曰く「出羽で庄內最上で上の山此處は會津の東山」といふ天然の公園東北の別天地と稱するも過言にあらず、一轉頭を廻せば高峯群嶺屹立し幽邃深奧にして千岳秀を爭ひ萬溪

歩を競ふ一度足を此地に蹈まば歸るを忘るゝも又宜なり。

若松市より新道開きたるを以て平坦砥平なり、山岳重疊奇巖峙ち其最高さを脊炙山と云ふ、又衣帽子山の諸山連立して雲表に聳え南方には鶴ケ城趾あり、櫻ケ岡公園ありて一個の仙境と稱す。

水碧林深六月寒、納涼最好且東山、浴餘共瀉忘夏物、一路清風帶醉還　大庭松齊

戎衣巳閲一星霜、身慣艱難氣益張、露臥寒山明月夜、松根枕戰夢家鄕　大鳥圭介

東山鑛泉　十餘口にして成分に異同なし性狀は無色透明にして嗅氣なく弱鹽類泉に屬す。

分析

分析表　食　鹽〇、九九二、　硫酸曹達〇、二二九、　炭酸曹達〇、〇一二、

炭酸石灰〇、〇五二、　硫酸加里〇、一二七、　硅　酸〇、〇五六、

鐵痕跡、若土痕跡有機物僅微、遊雜及半化石炭酸〇、〇四

入浴者心得

鑛泉の効用は慢性僂麻質斯、神經機亢進の諸症及び貧血諸病に特効あり。

旅館

(一)入浴の時期は四月頃より十月中旬に至る間を最良とす、入浴の期日は其人々に依りて異なれども概して三週を以て通例とす。

(二)入浴は一日二三回を通常の人の適度とす、朝は八時頃より夕六時頃とし時間は初日には最短くして漸く長く入浴するを良しとす、空腹滿腹のときは入浴すべからず。

(三)入浴後は乾燥したる浴布を以て身體を摩擦するを好とす、又入浴者は必ず初めに入浴せし泉の外決して他の泉に轉す可らず是れ其効なければなり。

溫泉張館　此地の旅館は皆山に據り水に臨み風景最眺望を絶佳なり。

(瀧の湯)「古瀧」山口とく、「瀧見屋」長場要太郎(瀧の湯)。

(川　端)「二八屋」吉川和吉(管の湯)、「米倉屋」石原やい(漣の湯)、「有馬屋」有馬新作(菅の湯)。

(南　側)「櫻屋」新井田長松榼の湯「近江屋」淺井くに(漣の湯)「下の桝屋」中條

いわ(榿の湯)「開新亭」佐藤でん(穴湯)、「目洗湯」、星くま(目洗湯)。

(北　側)「大和屋」武藤福治(網湯)、「上の桝屋」中條たけ(穴湯)、「大谷屋」横田熊五郎(隅の湯)、「土屋」土屋由松(網湯)、「向瀧湯」平田よね(狐湯)。

(川　向)(不動湯)石原身之進(猿湯)(新瀧湯)古川もと(狢湯)

温泉の効能は鑛泉に浴すると共に適當の運動を求むるを最良とす、故に温泉は景色に富める地をよしとす、今茲に名所舊蹟の大略を紹介せん。

羽黒山

此地の有名なる山にして山頂まで一町四十三間にして高百三十丈なり樹木蒼々たり西南に湯上神社あり山徑を東北に向つて登る北方の山腹より下を大日影山と云い西方の山腹赤岩より下を巖石山と云ふ、湯本村には雜木繁茂して一條の山徑を東北に向つて登る。

羽黒神社

雲復生煙峰不分、欲晴未霽氣氛氳、登來山上俯回首、頭上雲爲脚下雲。

温泉より北に向ひて八町の處にあり神社の由來は往時僧行基上人此地に來りて紫雲たなびくを見て尋ね入りしに忽ちにして三足の烏來り單陀利妙見正觀音の三尊の形を現出しければ、上人其靈場たるに感佩し三社權現を此地に觀請し一祠を建立したりと云ふ。

水澤山

湯本村にあり高さ百十五丈にして山脈は道月山より連り、南は羽黒山なり、麓より山頂まで四町三十八間なり。

背炙山

高さ二百六十丈山徑數條あり、湯川村よりも往路二條あり、一は羽黒山より頂まで二十八町、一は木賊(とくさ)の澤より頂上まで三十五町此路嶮峻にして遠し、此山は人呼んで冬坂峠とも稱す、昔は老松古杉繁茂したりしが今は里人伐木したれば禿山となりて一枝をも止めず。

雨降瀧

高さ三丈二尺巾八間にして空藏院瀧の上流にありて幾多の奇石散在して大小三十六階となり一段毎に水碎けて珠を濺ぎ或は散亂して霧となり雨となる人呼んで雨降瀧と云ふ。

伏見瀧

一に不思議が瀧と云ふ里川の下流にありて、上を雄瀧といひ下を雌瀧と云ふ、共に高さ二丈餘巾八間餘あり、老松相繁り物凄き感あり、此瀧は昔し羽黒權現建立の時忽然として瀧となりしが故に斯く名づけたりと傳ふ。

黒川

湯川とも稱す、河溪村より發し西北に流るゝこと二十六町にして院内村の界に入る、峭壁怪巖の上に古木連り碧潭いよ〳〵綠となり水青し山峻し川の深淺廣狹一ならず最も深き處十五間淺き處五間なり。

天寧寺

東山村にあり萬松山と號す、曹洞宗にして越後耕雲寺の末寺なり、應永二十八年芦名左近衛將監盛信の建立なり。

鶴ヶ城

若松市の東南にあり、若松は元里川と稱せしを以て里川城或は會津城若松城とも稱し市の東南にあり、會津の名稱の起りし所以は「大彥命」北陸道より其子「武渟川別命」東海道よりして來り賊を討たんとて此物に邂逅せしを以て其名ありと云ふ。文治五年奥州奉行葛西清重の將佐原義連の所領となり孫芦名元盛此處に築城し若松と名づく、十八年秀吉關東征討のとき蒲生氏郷に與ふ後ち上杉景勝來り其後を襲ふ又家康景勝を米澤に遷し再び氏郷を若松に封す然れども嗣なくして除かれ遂に保科正之の領となる。

百三十有餘年の星霜を經て維新のとき幕府を佐け大に戰ひしは即ち戊辰の役是れなり、然れども其役には遂に陷落せずして五層の城閣は存せられしが癈滯置縣と共に明治七年遂に之れを毀し今其趾を存するのみなり。

飯盛山

山麓に辨財天あるを以て辨天山とも稱す一箕村龍澤に屬す、往古此山に辨財天の祠を造營の際童女牛に乘り赤飯を器に盛り來り數町にして其影見えず因て此地を牛ヶ墓と稱し此山を飯盛と名づく。

戊辰の役白虎隊の勇士十有九名此山にて自刃せしよりして大に其名内外に聞ゆ白虎隊の墓は此山にありて石の七尺餘の靈塲門に「精忠貫冒勁節凌風霜」の十字を刻し中央に一丈餘の大碑あり、此山に登臨すれば眺望殊に佳なり若松市會津の曠

原一眸にあり。

いく人の涙は石にそゝぐともその名は世々に朽じとそ思ふ　容　保

紫螺堂

構造は六稜の三層にして直立五十一尺旋回して降る、寛政年中郁堂和尚の創建せしものなり、飯盛山の中腹白虎隊の墓の下にあり其形紫螺の殼に似たるを以て名あり。

辯財天祠

飯盛山の麓にあり昔天女數多の童女を伴ひ山上に現はれ農夫に謂て曰く我れ此地の鎮護神たらんとすと因て永德年間始めて祠を建立すといへり。

瀧路

其他唐澤山、原の小山、道月山、抱石山、順階瀧、猿溜瀧、尼龍、源瀧、金蓋瀧、虛空藏瀧、刎石瀧、三階瀧、無名瀧、長瀧、傘岩、屏風岩等あり。

歸途岩越線若松より廣田を經て大寺に至れば「日橋溫泉」あり翁島には「人取石」猪苗代には會津五大湯の一なる「大鹿湯」あり川桁には「中ノ澤溫泉」あり關戸を經て山潟には「猪苗代湖琉水關門」あり中山宿を經て熱海には「熱海溫泉」あり安子ヶ島より堀の内には「隱津島神社」ありて此驛より奥州線郡山に至る、郡山より白河には「甲子溫泉」「四十八瀑」「十六景」「十七勝」あり黑田原には「旭溫泉」黑磯には「那須溫泉」あり東那須には「板室溫泉」あり西那須には「鹽原溫泉」ありて宇都宮より小金井には「慈願寺櫻」古河には「桃園」賴政中社あり栗橋には「不動岡不動尊」等ありて其他蓮田大宮浦和蕨赤羽王子等にも名勝舊蹟等尠からず。

東山。費用支出概算

▲汽車賃

上野停車場より若松停車場まで（片道）

三等貸金貳圓貳拾九錢　二等金參圓五拾九錢　一等金六圓五錢

○割引往復券三等貸金壹圓五拾錢　二等貸金貳圓參拾錢

若松停車場より車馬貸金貳拾錢位

▲北側（大和屋）

○宿泊料
上等金貳圓貳拾錢　中等金壹圓貳拾錢　下等金八拾五錢　但し三食にして下等は入込なり
○座敷貸切三疊金參拾錢　六疊金壹圓
上等六疊金壹圓五拾錢　八疊金貳圓　十疊金參圓
下等一夜具共夜拾錢　下等蒲團損料大四錢　小貳錢
中等一共夜參拾錢　中等蒲團一枚大六錢　小四錢　但し入込の事

▲同瀧（百原屋）
○宿泊料　全部一日、上等金壹圓五拾錢　下等一日金壹圓

▲古瀧（山口屋）
○宿泊料　特等金貳圓五拾錢　上等金壹圓五拾錢　中等金壹圓　下等金六拾錢
追て料理の磯は一人前金拾五錢より金參拾五錢

▲川端（米倉屋）
○宿泊料　上等金貳圓　中等金壹圓五拾錢　下等金壹圓
○共食料　上等金七拾五錢　中等金五拾錢　下等金參拾五錢

上諏訪

千野湯＝小和田湯＝田宿湯＝土湯＝北小路湯＝精進湯＝花湯＝旦過湯＝綿湯＝無名湯＝諏訪上社＝諏訪下社＝諏訪湖舟遊

集合地　飯田町停車場　**集合時間**　午前七時

△午前七時五十五分飯田町停車場を發し「新宿」「大久保」「中野」「荻窪」「吉祥寺」「境」「國分寺」「立川」「日野」「豐田」「八王子」「淺川」「與瀨」「上ノ原」「鳥澤」「猿橋」「大月」「笹子」「初鹿野」「鹽山」「日下部」「石和」「甲府」「韮崎」「日野春」「小淵澤」「富士見」「青柳」「茅野」等の各停車場を經て午後四時二十九分「上諏訪」停車場に着す、（次ぎの列車は前十時四十分發にて後七時四十分着す）（一二一哩七、八時間三十四分）

中央東線たる諏訪への行程は世界有名なる大隧道にして最初なるを湯の花とす、次は小佛にして延長八千三百五十尺なり此間八分時とす、其次は「横吹」、「板

橋」、「天屋」、「平野」、「上野山」、「與瀬」、「横道」、「第二横道」、「橋澤」、「小原」、「吉野」、「藤野」、「小淵」、「第二小淵」、「第三小淵」、「諏訪」等にして其數十八箇あり。其れより「上野原」に出で又もや隧道あり「松留」、「四方津」、「第二四方津」、「巖」、「第二新倉」、「第三新倉」、「梁川」、「第二梁川」、「斧窪」、「巖山」、「富濱」、「第二富濱」、「宮谷」、「大原」を經て「猿橋」に達す、猿橋より大月までは桂川の清流を眺め大月を過ぐれば天津山あり其れよりは實に帝國最長大隧道たる「笹子」なり實に其延長一萬五千二百四十六呎にして其間十分を費す、又數分ならずして「鶴瀬」に入る次は「横吹」「第二横吹」、「深澤」、「大日影」、「岩戸」、「牛淵」、「第二牛淵」、の諸隧道にして全くの盡くる處は鹽尻驛にして其の數は四十二ヶ所延長六萬三千二百二十六呎餘ありて全線路長さ五十三哩三十鎖にして、日下部、甲府、富士見、等の各驛を經て上諏訪に達するなり。

實に此行路は八王子を過ぐれば忽ち暗黑界に入り、上野原、猿橋、大月に至つて初めて光明界に出て、鹽尻に至り初めて曠野を見一望して開豁たり恰も夜の明たるの心地すなり。

上諏訪

甲府に次ぐ大驛にして中央線の中樞なり、諏訪湖の東岸にありて下諏訪とは大和城趾を以て界となし、南北に長く東西に狹くして大厦高樓軒を並べ豫想以上の地なり。

此地は「八ヶ嶽」「硫黄嶽」「茶臼嶽」「立科山」等の舊火山附近に連亘せるを以て溫泉の湧出する處甚多く上・下諏訪到る處田野、人家、湖水の別なく湧出す、しかもその水頗る清淨にして一點の塵埃をも認めず、上諏訪にあるものは多くは硫黄泉にして下諏訪にあるは鹽類泉なり、何れも無色透明にして入浴後は大に心氣を爽快ならしむ。